



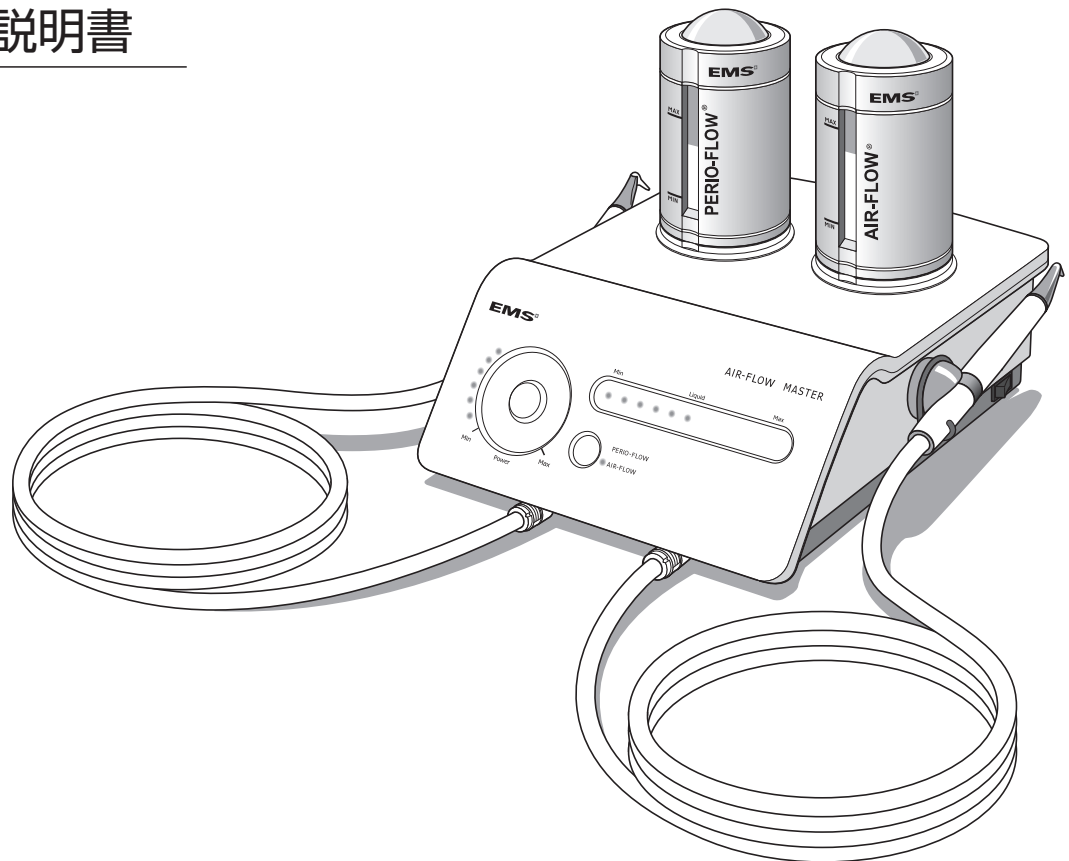
安全にお使いいただくために、
取扱説明書をよくお読みください。

AIR-Flow Master

エアフローマスター

電動式歯面清掃用装置

取扱説明書



SHOFU INC.

はじめに

このたびは、電動式歯面清掃用装置「エアフロースター」をご購入いただき、誠にありがとうございます。この取扱説明書は「エアフロースター」の正しい取り扱い方と、日常の点検および注意について説明しています。

本器の性能を十分に発揮させ、また常に良好な状態を保っていただくために、ご使用になる前には本書をよくお読みいただき、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。

なお、本書はお読みになった後もご使用になる方がいつでも見られるところに大切に保管してください。

おねがい

- 本書の内容を無断で転載することを固くお断りします。
- 製品の改良などにより、本書の内容に一部、製品と合致しない箇所が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。
- 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 万全を期して本書を作成しておりますが、内容に関して、万一間違いやお気付きの点がございましたら、ご連絡を頂きますようお願い申し上げます。
- 乱丁、落丁の場合はお取り替えいたします。最寄りの弊社販売店までご連絡ください。
- トラブルについては、保証の範囲に準じた対応をさせていただきますが、治療処置への影響など副次的トラブルについてはその責任を負いかねますのでご了承ください。

もくじ

はじめに.....	ii
おねがい.....	ii
もくじ	iii
用 途	vi
1 安全にお使いいただくために.....	1
警告・注意などの記載について	1
その他の表示について	1
安全に関する事前の注意	2
患者の副作用・傷害について.....	3
設置と接続について	6
使用方法について	7
「保守・点検」について	11
2 各部の名称	12
本体	12
パウダーチャンバー	13
本体（裏面）	14
本体（背面）	15
パーツおよび付属品	16
3 設置と接続のしかた	18
フットコントローラーの接続.....	18
電源コードの接続	19
エアホースの接続	19
ウォーターホースの接続	20
4 使用前の点検.....	21
5 使用前の準備.....	22
ハンドピースホースの接続.....	22
エアフローパウダーの選択について	24
エアフローパウダーの充填.....	25
エアフローS ソリッドハンドピースの接続	28
ペリオフローハンドピースの接続	29

6 操作のしかた.....30

治療の流れ.....	30
本体の起動.....	31
スタンバイモード.....	32
モードの選択.....	33
ペリオフローパウダーチャンバーの検知について.....	34
フットコントローラーの操作.....	35
●ブースト機能について.....	36
水量の調整.....	37
エアー圧の調整.....	37
エアフローの使用法.....	38
●気腫について.....	38
●水量の調整.....	38
●エアー圧の調整.....	39
●術式.....	39
ペリオフローの使用法.....	41
●菌血症について.....	41
●気腫について.....	41
●水量の調整.....	41
●エアー圧の調整.....	41
●術式.....	42
パージ機能.....	47
セルフクリーニング機構.....	49
洗浄・消毒・滅菌.....	49

7 再使用器具の洗浄・消毒・滅菌処理方法.....50

基本原則.....	50
●再使用器具の処理方法.....	50
ハンドピースの洗浄・消毒・滅菌.....	50
●滅菌および包装について.....	53
ハンドピースホースの清掃.....	53
本体の清掃.....	54
パウダーチャンバーの清掃.....	54
適切な洗浄・消毒・滅菌方法の一覧.....	57

8 耐用年数.....57

9 保守・点検	58
ヒューズの点検	58
●点検・交換方法	58
パウダーチャンバーの点検	59
●キャップリング、キャップOリング、 キャップドームの点検・交換方法	59
●チャンバーOリング(中)および チャンバーバルブの点検・交換方法	60
ハンドピースホースの点検	61
●ハンドピースソケットのOリング(大、中)の点検	61
●コードシールの点検・交換方法	61
●ハンドピースホースプラグのOリング(小)の 点検・交換方法	62
チャンバーホルダーの点検	63
●点検・交換方法	63
水フィルターの点検	65
●点検・交換方法	65
エアフィルターの点検	66
●点検・交換方法	66
10 異常を感じたら	68
11 保管・輸送方法	71
12 本器の廃棄	71
13 仕様	72
14 商品の構成および付属品・別売品	73
15 保証	74

用 途

水流または空気流を利用して粉体を吹き付けることにより、歯の清掃または研磨に使用します。

- エアフローシステム ：歯面清掃
- ペリオフローシステム：歯周ポケット内の歯面清掃

1 安全にお使いいただくために

本器を安全にお使いいただくために、以下の事項を必ず守ってください。

警告・注意などの記載について

本書では、安全に関する重要な注意事項を「禁忌・禁止」、「警告」、「注意」に分類して説明しています。必ず各内容をよくお読みのうえ、厳守してください。

各警告・注意などの表示の内容は次のように定義されています。

 禁忌・禁止	この表示は、設計限界または不適正使用など、責任範囲を超える対象および使用方法について記載しています。表示を無視して誤った取り扱いを行うと、使用者または患者が、死亡または重篤な健康被害などを引き起こす可能性があることを表しています。
--	---

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いを行うと、使用者または患者が死亡または重傷を負う可能性があることを表しています。
---	--

 注意	この表示を無視して誤った取り扱いを行うと、使用者または患者が傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性があることを表しています。
---	--

その他の表示について

「警告」や「注意」表示以外については、下記のとおりです。

 **注記** ・ この表示を無視して誤った取り扱いを行うと、機器が正常に作動しないまたは故障する可能性があることを表しています。

 **参考** ・ この表示は、使用時の作業をわかりやすくするための補足説明を表しています。

 **参照** ・ この表示は、ご覧いただきたい参照先を表しています。

安全に関する事前の注意

- ・ 安全を保つための予防策には注意を払い、常に取扱説明書を手元に保管してください。人的傷害、物的損傷を避けるために、関係する規制に留意してください。
- ・ 不適切な使用、特に本取扱説明書に従わない場合、あるいは不適切な準備や保守に起因する、直接あるいは結果として生じた傷害や損失に対して、弊社、製造元および本器の販売者は責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ 以下は、安全に関する事前の注意事項について記載しています。

⚠ 警告

- この取扱説明書をよく読み、特に安全を保つための予防策に注意を払うこと。また、常に本書を手元に保管しておくこと。
取り扱いや操作方法の熟知を怠ると、患者または術者が重大な傷害を被るおそれや、本器に修理不能な損傷をもたらすおそれがあります。
- 本器を使用する前に、本書に記載されている注意事項（「禁忌・禁止」、「警告」、「注意」）を十分に理解すること。そのうえで、それらを遵守して本器を使用すること。特に気腫に関しては、下記の各事項を十分に踏まえて使用すること。
 - ・ 類似品において、軟組織や歯肉溝に向けて噴射し、気腫を発生させた事例が報告されている。
 - ・ ペリオフローハンドピース／ノズルは、歯周ポケット内において噴射するシステムであり、気腫に対してさらなる注意が必要である。取扱説明書に記載の注意事項（「禁忌・禁止」、「警告」）については、その周知徹底をはかるため、別途提示確認させていただく場合があります。
- 本器は、添付文書の【使用目的、効能又は効果】に記載の用途以外には使用しないこと。
- 添付している「医用電気機器の使用上（安全および危険防止）の注意書」、「添付文書」を必ず読むこと。
- 本器を使用した処置により発疹、皮膚炎などの過敏症状が現れた場合には、使用を中止し、医師の診察を受けること。
- 本器を使用した処置により気腫が発生した場合は、直ちに使用を中止し、医師の診察を受けること。

患者の副作用・傷害について

本器は、エアーやパウダーを使用して歯面清掃を行うという製品の特性上、誤った使い方によって気腫や菌血症、アレルギーなどの発生の危険性が生じます。このような副作用や傷害を防ぐため、以下の項目を遵守してください。

⚠ 禁忌・禁止

適用対象(患者)について

- 次の患者には使用しないこと。
 - ・ 重篤な消化器潰瘍のある患者
 - ・ 腎臓障害のある患者
 - ・ 心機能障害、肺機能障害のある患者
 - ・ 慢性の気管支炎、喘息、その他の呼吸器疾患のある患者
 - ・ 口腔内に傷や異常の認められる患者
 - ・ 口腔内に充血、出血、炎症が認められる患者
 - ・ 口腔粘膜が炎症、ただれを起こしやすい患者病気や障害に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 次の患者にはエアフローパウダー（レモン味）を使用しないこと。
 - ・ ナトリウム摂取制限を必要とする患者(高ナトリウム血症、浮腫、妊娠中毒症など)
 - ・ 低クロル性アルカローシスなどの電解質失調などのある患者病気や傷害に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- ペリオフローシステムは歯周病治療後のメンテナンスなど、健康な歯周ポケットの患者のみに使用し、それ以外の患者には使用しないこと。
気腫を生じるおそれがあります。
- 次の患者にはペリオフローシステムの使用を避けること。
 - ・ 心内膜炎のある患者
 - ・ 妊娠中、授乳中の患者
 - ・ 伝染病の患者
 - ・ 免疫不全症(好中球減少症、顆粒球減少症、無顆粒球症、糖尿病、血友病)の患者
 - ・ 放射線治療中、化学療法治療中、抗生物質投与中の患者これらの患者に対する深い歯周ポケットへの使用は、菌血症を生じるおそれがあります。
- 次の患者には使用を避けること。
 - ・ アレルギー体質の患者アレルギーを起こすおそれがあります。

禁忌・禁止

患者への使用について

- ペリオフローハンドピースを使用する場合は以下の注意を厳守すること。
 - ・ 次の条件を満たす歯周ポケットのみに使用すること。
 - 歯周病が原因で生じた歯周ポケット
 - 根尖から歯槽骨頂までの高さが3mm以上の歯周ポケット
 - 根尖から歯肉溝底までが3mmを超える歯周ポケット
- 気腫を生じるおそれがあります。使用前に必ず、歯周ポケットの深さ計測(プロービング)やX線撮影によって確認してください。

禁忌・禁止

患者以外に関する事項について

- 歯科医療有資格者以外は使用しないこと。
- 使用上の注意を厳守すること。
- エアフローS ソリッドハンドピースを使用する場合は以下の注意を厳守すること。
 - ・ 歯肉に向けて直接噴射しないこと。
 - ・ 噴射は、歯頸部から切端(咬頭)方向に流れる向きで使用する。
 - ・ 歯肉に近い部位の清掃は、噴流の周辺を使用すること。
 - ・ ハンドピースのノズル先端から歯面までの距離は3~5mmを守ること。

気腫を生じるおそれがあります。
- ペリオフローハンドピースを使用する場合は以下の注意を厳守すること。
 - ・ 歯周ポケットの歯面のスケリング処置直後に、同一部位へのペリオフローノズルの使用は行わないこと。
 - ・ 同一の治療で、同一の歯周ポケット部位にペリオフローノズルを2回以上挿入しないこと。
 - ・ 同一歯周ポケット内での噴射は最大5秒間とし、それ以上は絶対行わないこと。
 - ・ ペリオフローノズルを歯周ポケットに強く押し入れないこと。
 - ・ 必ずエアフローパウダー(ペリオ)を使用すること。
 - ・ ペリオフローノズルの先端を歯周ポケットの底に当てたまま噴射しないこと。

気腫を生じるおそれがあります。

禁忌・禁止

- ペリオフローノズルは再使用しないこと。
気腫や菌血症の他、感染や患者への傷害を起こすおそれがあります。
- 必ず純正のパウダーを使用すること。
気腫やその他の傷害を起こすおそれがあります。また、本器が故障するおそれがあります。
- コンタクトレンズを装着している患者には、必ず保護眼鏡を着用させること。
目の傷害を起こすおそれがあります。
- 劣化、異常などの不具合が認められた場合は使用しないこと。
本器の使用による間接的な傷害や損失に対しては、本器の劣化・異常などによるものを含め、弊社、製造元、および本器の販売者は責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

警告

- 歯周ポケットの治療には、必ず純正のペリオフローノズル、ペリオフローハンドピース、ペリオフローチャンバー、およびエアフローパウダー（ペリオ）を使用すること。
気腫を生じるおそれがあります。特に純正以外のパウダーを使用するとペリオフローノズルが損傷し、治療効果が無いだけでなく、セメント質および象牙質にダメージを与えたり、気腫を生じる可能性が高くなります。
- ペリオフローノズルは滅菌しないこと。また、ペリオフローノズルのパッケージが破れたり、隙間が生じたり、損傷している疑いがある場合や、ペリオフローノズル自体が損傷している場合は、使用しないこと。
ペリオフローノズルが変形したり、損傷している可能性があるため、気腫を生じるおそれや、患者に損傷を与えるおそれがあります。
- 水の供給が無い状態では、絶対にペリオフローハンドピースを使用しないこと。
気腫を生じるおそれや、患者に傷害を与えるおそれがあります。
- 噴射のエア圧 (Power) は、最大でも噴霧が歯周ポケットから少し出る程度に設定すること。

設置と接続について

警告

- 電源電圧が交流100V (50Hz／60Hz)であることを確認し、漏電防止機能で保護された電源で使用する事。
火災や感電のおそれがあります。
- 医用コンセントまたは接地極付きコンセントを使用し、必ず接地を施すこと。
火災や感電のおそれがあります。
- 引火性や可燃性の物質の近くで使用しないこと。
爆発や火災のおそれがあります。
- 電源コードを本体に接続または取り外す際は、電源プラグを抜いてから行うこと。また、電源コードの本体への接続は奥まで確実に差し込むこと。
感電のおそれがあります。
- 本器の電源コードおよびヒューズを他の機器に使用しないこと。
他の機器の異常動作や火災のおそれがあります。

注意

効能・効果に関連する使用上の注意

- 給水は供給圧0.1～0.5MPaの上水道源（飲用に適するもの）に接続すること。
水量が不足したり、動作しない場合があります。
- 使用する空気（エア）は、供給圧0.55～0.75MPaのオイルミストを含まない乾燥した清浄な空気であること。
噴射のエア圧（Power）が不足したり、動作しない場合があります。
- 各部品は純正品を使用して確実に接続・設置すること。エアホースおよびウォーターホースへの接続は、必要に応じてホースバンド（抜け止め）を使用すること。
本器規定の機能が発揮されなかったり、動作不良を起こすおそれがあります。

使用方法について

警告

- 水をかけないこと。
感電や火災のおそれがあります。
- 電源コードを傷付けたり、破損させたり、加工したりしないこと。また、無理な力を加えたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないこと。
電源コードが破損し、感電や火災のおそれがあります。
- 使用後は電源スイッチを切ること。
電源を入れたままにしておくと、機器の劣化を早め、火災や感電のおそれがあります。
- 使用しないときは、必ず給水の元栓やエアーのコックを閉じておくこと。
- 電源コードは電源プラグを持って引き抜くこと。コンセントへの電源プラグの抜き差しは、濡れた手でやらないこと。
けがや火傷、絶縁劣化による火災、感電のおそれがあります。
- 患者および術者、介助者は保護眼鏡を着用すること。万一目にパウダーが入った場合は、すぐに大量の水で洗浄し、眼科医の診断を受けること。
パウダーにより目に傷害を起こすおそれがあります。
- 患者にはバキュームやロール綿を使用すること。
細菌などによる感染およびけがをするおそれがあります。
- 術者および介助者はラテックスグローブやマスク、保護具などを着用すること。
細菌などによる感染および破折片による損傷のおそれがあります。
- 術前、術中、術後にかかわらず、絶対にハンドピースを患者（の口腔外の部位）に向けないこと。
- ハンドピースを使用しないときは必ずマグネットサポートUにセットして、患者、術者、介助者に向けないこと。
パージ機能やセルフクリーニング機構の動作により、噴射が行われる場合があります。また不用意な操作により、ノズルからパウダーが噴射されることがあり、目などが傷害を受けるおそれがあります。誤って目にエアーやパウダーを向けた場合、深刻な目の傷害を引き起こします。
- 5秒間隔のブザー報知機能が働かなくなるため、ペリオフローシステムではブーストペダルを踏まないこと。
- ハンドピース、ステリボックスなどの再使用器具は、必ず洗浄、消毒、および滅菌すること。
細菌やウイルスなどによる交叉感染のおそれがあります。

警告

- お手持ちの滅菌装置が、次の規格に沿い実証された滅菌サイクルで働かないおそれがある点に留意すること。
滅菌サイクルは、国際規格ISO14161：2000「ヘルスケア用品の滅菌・生物学的指標・選択、使用と結果解釈のための指針」に従って実証されている必要があります。
再使用器具の滅菌不完全を招き、細菌やウイルスによる交叉感染のおそれがあります。
 - 再使用器具の洗浄時は、作業者はゴーグル、マスク、ゴム手袋などの防護具を着用すること。
作業着が汚染され、感染するおそれがあります。
 - 血液、体液が付着した再使用器具は使用後現場で洗浄せずに、専用の洗浄室で処理すること。
洗浄時の飛沫により、現場周辺の患者、術者、作業着、および環境への汚染のおそれがあります。
 - 洗浄、消毒、滅菌の手順については、「7 再使用器具の洗浄、消毒、滅菌処理方法」に従った処理を行うこと。
-

⚠ 注意

- 治療を始める前に、本器に損傷がないかどうかを常に点検すること。損傷を受けた付属品や機器は使用せず、新品に交換すること。
けがや火傷のおそれがあります。
- パウダーは乾燥したもの（凝集が無いもの）を使用すること。
- パウダーチャンバーが加圧された状態で、パウダーチャンバーを取り外したり、キャップリングを開けたりしないこと。
パウダーチャンバー内に圧力がかかった状態のため、パウダーが飛散します。
- 電源投入後最初に使用するときや、エアー圧 (Power)、水量 (Liquid)、チャンバー、ハンドピースを変更したときは、必ず口腔外で動作を確認してから使用すること。特にハンドピースから水が噴出することを確認すること。
初めて使用する場合は、事前にメダルなどを使って噴射処置の練習を行なってください。
- ハンドピースは洗浄、消毒、および滅菌後に十分乾燥させること。ハンドピースを接続する前に、ハンドピースホースのプラグおよび本体のハンドピースホースソケットをエアーで乾燥させること。
水分が残っているとパウダーが凝集して固まるおそれがあります。
- 水量 (Liquid) が多過ぎると除去効果が悪くなるため、調整する際には注意すること。
- パウダーを噴出させるときは、供給する水量 (Liquid) を少なくし過ぎないこと。
パウダーが周囲に充満し、患者に不快感を与えるおそれがあります。
- パワーコントローラーおよびウォーターコントローラーは、患者の知覚状態や着色などの取れ具合などに応じて適宜調整すること。
歯牙を痛めるおそれがあります。
- 本器の前面パネルはタッチセンサになっているため、不用意に手指や物品が触れないようにすること。
設定が変更されてしまうおそれがあります。
- 患者の歯面以外の人体、および、術者や介助者の人体に向けて絶対に噴射しないこと。
- ノズルを直接、歯肉、修復物、またはクラウンなどの補綴装置に向けて噴射しないこと。
パウダーにより、修復物や補綴装置に傷を付けるおそれがあります。
- ペリオフローノズルを歯周ポケットの外で使用しないこと。
患者にとって不快な多方向噴射が発生します。
- 使用中にハンドピースホースが膨らんだり、本体との接続部からエアーやパウダーが漏れたときは、すぐに使用を中止すること。
ハンドピースホースが破裂して耳に傷害を受けるおそれがあります。

注 意

- 使用後は必ずパージを行い、本体、ハンドピースホース、ハンドピースの残留物を取り除くこと。
細菌などによる感染のおそれがあります。また、管路にパウダーが詰まるおそれがあります。
 - パウダーの充填は、パウダーチャンバーを外す前にパージを行い、パウダーチャンバーを本体から取り外してから行うこと。
パウダーチャンバーの取り外しは、チャンバーへの加圧が開放されているときに行なってください。
 - ペリオフローチャンバーにはエアフローパウダー（ペリオ）のみ充填すること。
 - ペリオフローハンドピース、ペリオフローノズル、およびペリオフローチャンバーは、エアフローパウダー（ペリオ）専用で使用する。
-

「保守・点検」について

禁忌・禁止

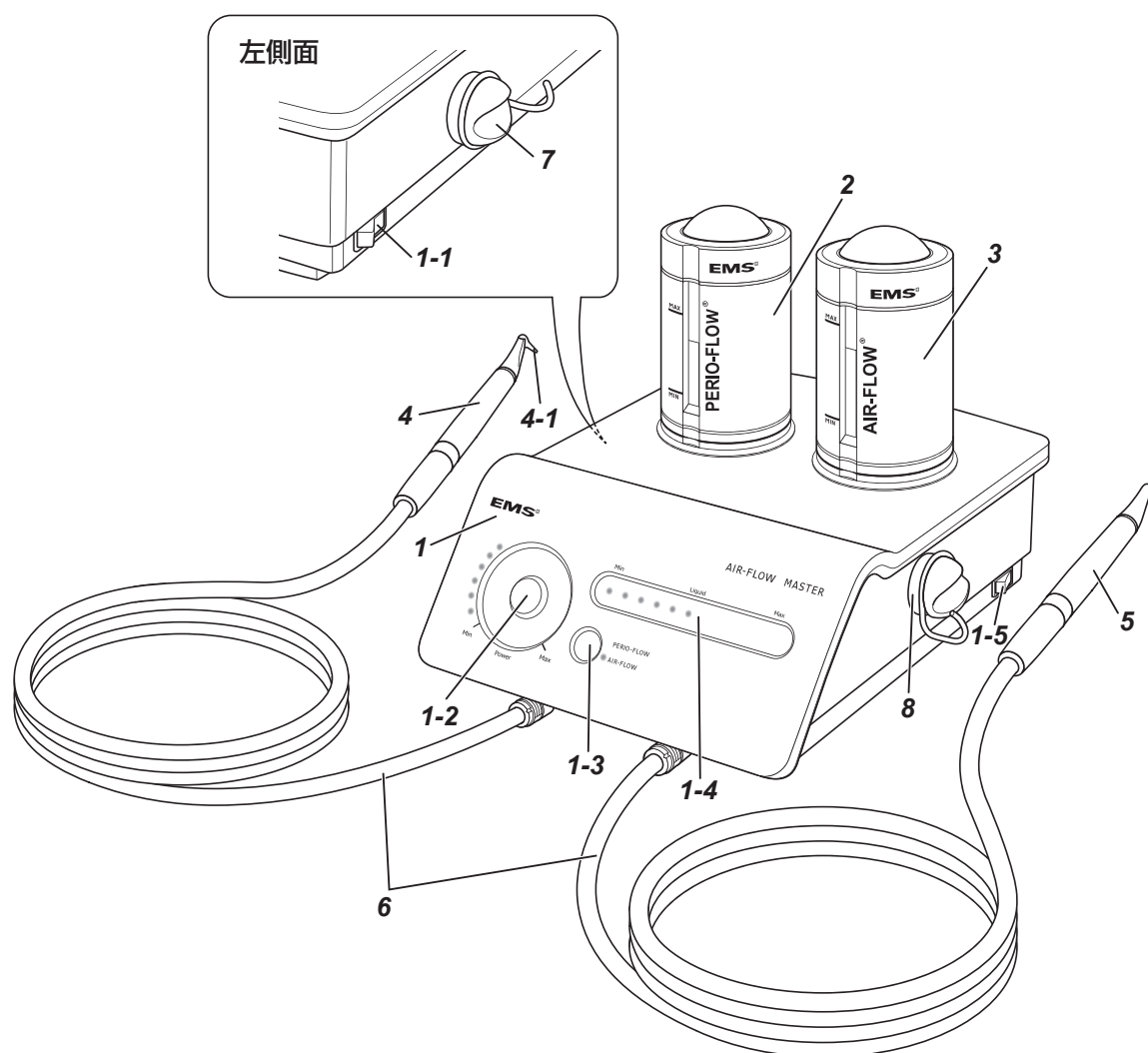
- 保守・点検が行われていない状態で使用しないこと。
- 本器を分解・改造しないこと。
- 本器の修理は製造販売業者に依頼すること。

警告

- 長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜くこと。
機器の劣化を早め、火災や感電のおそれがあります。
- ヒューズの点検・交換は電源プラグをコンセントから抜いて行うこと。
感電のおそれがあります。
- ヒューズは必ず指定容量のものを使用すること。
感電や火災のおそれがあります。
- 水フィルターの点検・清掃を行うときは、必ず電源コードをコンセントから抜き、給水の元栓を締めること。
感電のおそれがあります。
- 使用中、機器に異常を感じたときは直ちに使用を中止し、点検・修理を依頼すること。
- 微生物の伝播による感染防止：修理や点検の場合は製品を移送する前に、すべての付属品を含めて「7 再使用器具の洗浄・消毒・滅菌処理方法」の記述に従って、洗浄、消毒、滅菌処理を実施すること。
流通業者や修理担当者などを含む感染予防にご配慮ください。汚染された状態で到着した製品およびアクセサリーは、修理サービスを拒否する場合があります。

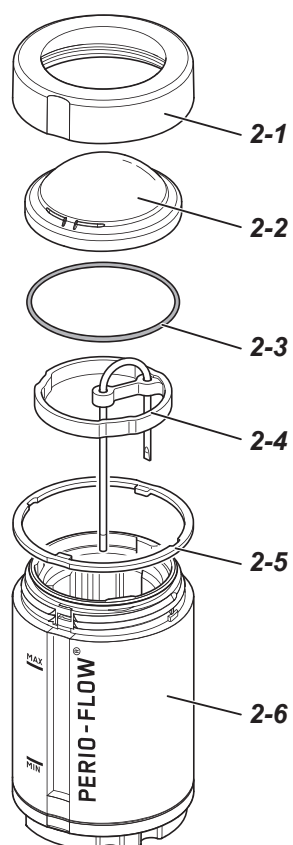
2 各部の名称

本体



- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 本体 | 3 エアフローパウダーチャンバー |
| 1-1 電源スイッチ | 4 ペリオフローハンドピース |
| 1-2 パワーコントローラー | 4-1 ペリオフローノズル |
| 1-3 モード選択スイッチ | 5 エアフローS ソリッドハンドピース (白) |
| 1-4 ウォーターコントローラー | 6 ハンドピースホース |
| 1-5 パージスイッチ | 7 マグネットサポートU (左) |
| 2 ペリオフローパウダーチャンバー | 8 マグネットサポートU (右) |

パウダーチャンバー



2 ペリオフローパウダーチャンバー

2-1 キャップリング

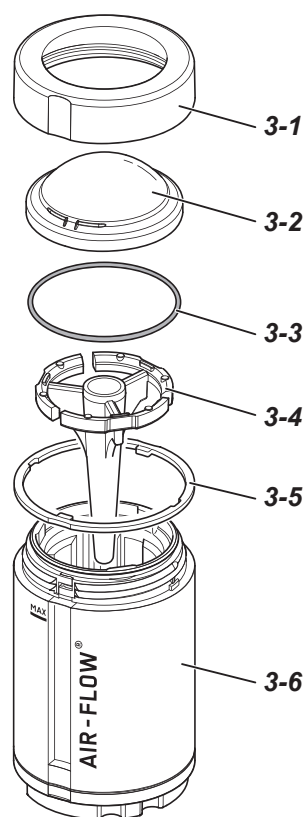
2-2 キャップドーム

2-3 キャップOリング

2-4 ペリオフローパウダー
ディフューザー

2-5 カラーリング

2-6 パウダーチャンバー



3 エアフローパウダーチャンバー

3-1 キャップリング

3-2 キャップドーム

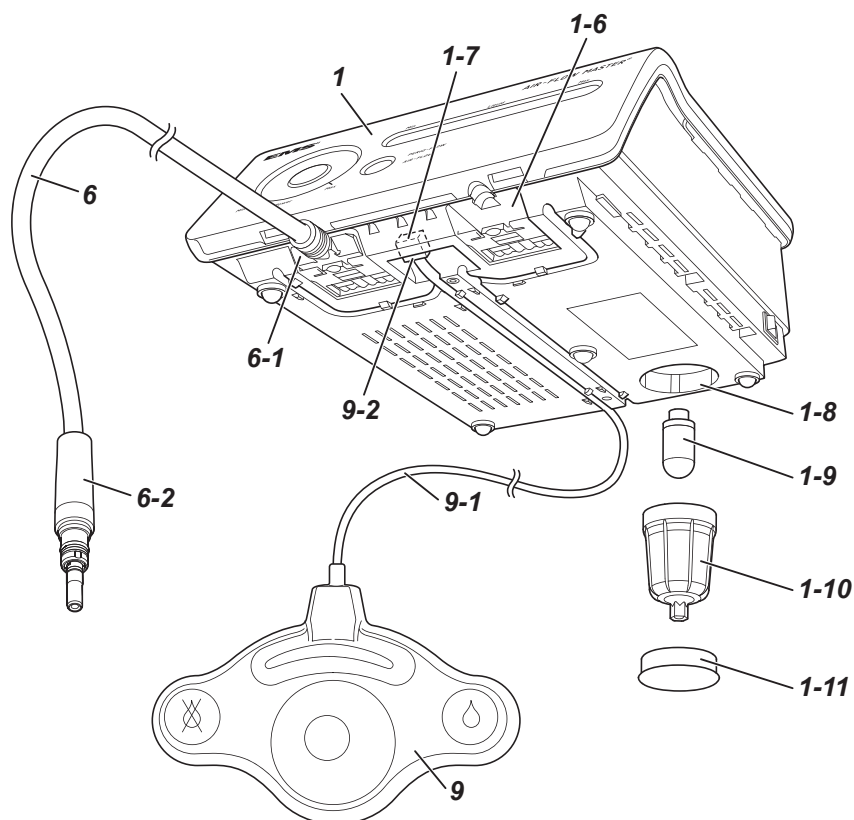
3-3 キャップOリング

3-4 エアフローパウダー
ディフューザー

3-5 カラーリング

3-6 パウダーチャンバー

本体(裏面)



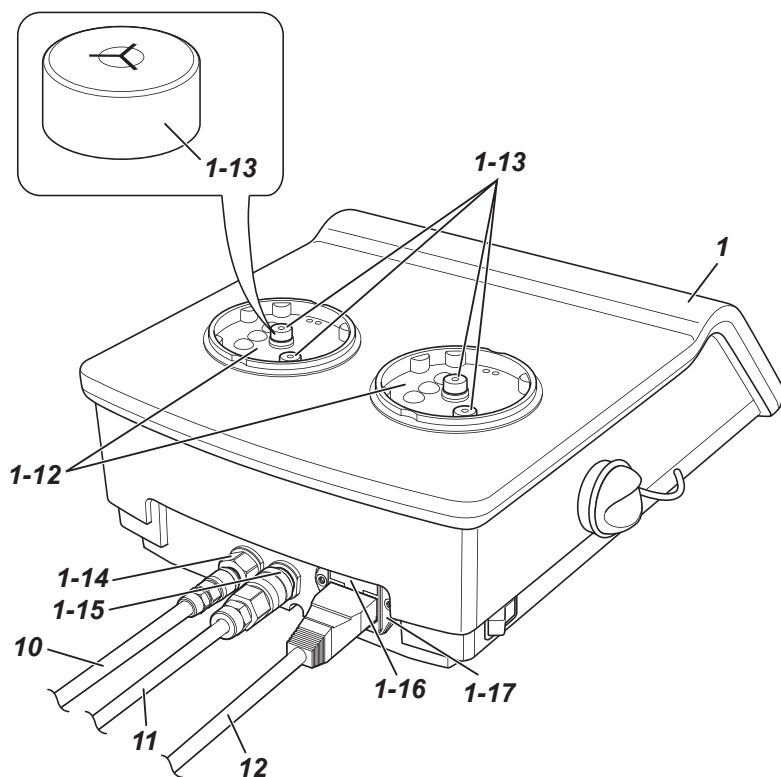
1 本体

- 1-6** ハンドピースホースソケット
- 1-7** フットコントローラーソケット
- 1-8** エアフィルター収納部
- 1-9** フィルターエレメント
- 1-10** フィルターハウジング
- 1-11** エアフィルターキャップ

6 ハンドピースホース

- 6-1** ハンドピースホースプラグ
 - 6-2** ハンドピースソケット
- ### 9 フットコントローラー
- 9-1** フットコントローラーケーブル
 - 9-2** フットコントローラープラグ

本体(背面)



1 本体

1-12 チャンバーホルダー

1-13 エントリーキャップ

1-14 ウォーターホースコネクター

1-15 エアホースコネクター

1-16 ヒューズボックス

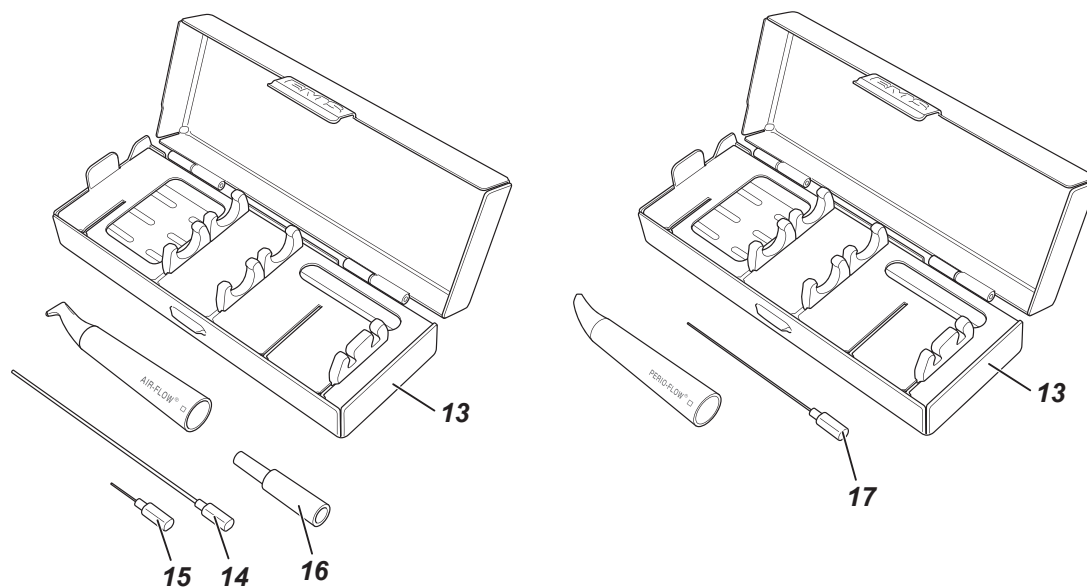
1-17 電源ソケット

10 ウォーターホース

11 エアホース

12 電源コード

パーツおよび付属品



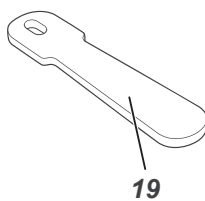
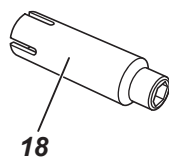
13 スteriボックス (1/4DIN)

14 エアフローS ソリッド用清掃針 (長：全長125mm)

15 エアフローS ソリッド用清掃針 (短：全長27mm)

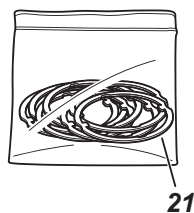
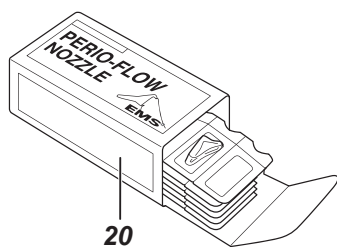
16 ニードルガイド

17 ペリオフロー用清掃針 (全長96mm)



18 六角プラスチックレンチ (1個)

19 ノズルリムーバー



20 ペリオフローノズル (40個入)

21 パウダーチャンバーカラーリングセット

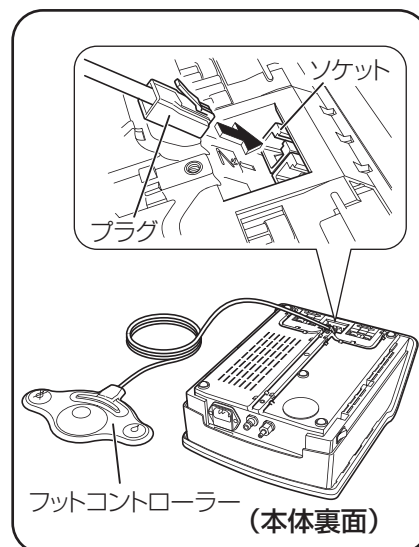
22 エアフローパウダー (レモン味) : 300g ボトルタイプ

3 設置と接続のしかた

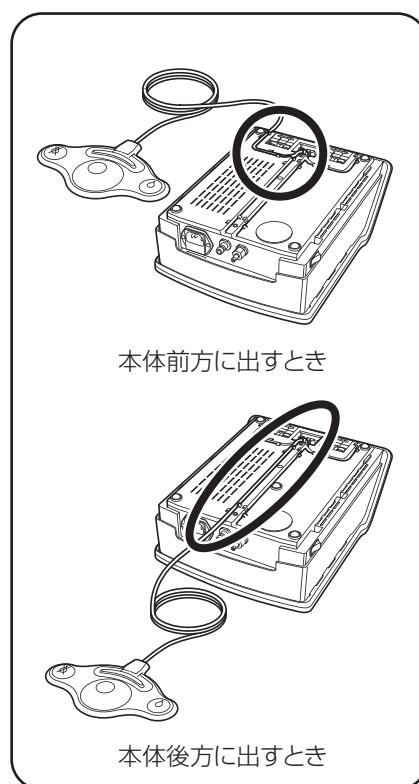
●「設置と接続について」の △警告 および △注意 を守ってください。

フットコントローラーの接続

1. 本体裏面のフットコントローラーソケット( マーク側)に、フットコントローラープラグを接続してください。

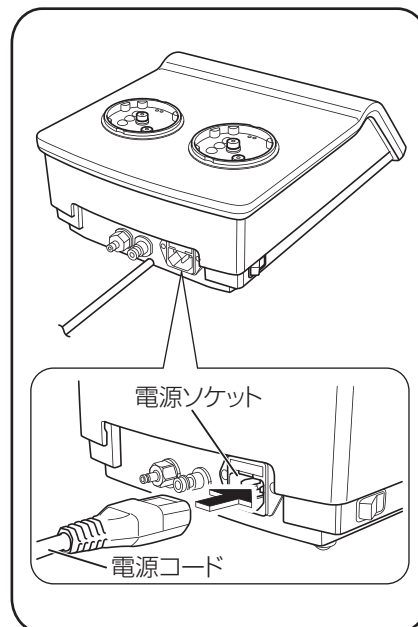


フットコントローラーケーブルを本体裏面の溝に沿わせてはめ込み、本体前方または後方からケーブルが出るように配置してください。



電源コードの接続

1. 本体背面の電源ソケットに電源コードを接続してください。



エアホースの接続

1. エアホースコネクターを本体に接続してください。
コネクターのスリーブ(刻み目のあるリング)をホース側に寄せたまま、本体のエアホースコネクターに差し込んでください。スリーブが元の位置に戻れば固定されます。



注記

- ・ エアーは、供給圧0.55～0.75MPaで、オイルミストを含まず、乾燥した清浄なものを使用してください。
- ・ エアホースには抜け止めを施し、エアー漏れがないことを確認してください。
- ・ 供給元にエアホースを接続するとき、ウォーターホースとの差し間違いに注意してください。

ウォーターホースの接続

1. ウォーターホースコネクターを本体に接続してください。
コネクターのスリーブ(刻み目のあるリング)をホース側に寄せたまま、本体のウォーターホースコネクターに差し込んでください。スリーブが元の位置に戻れば固定されます。



注記

- ・ 給水は、供給圧0.1～0.5MPaの上水道源(飲用に適するもの)に接続してください。
- ・ ウォーターホースには抜け止めを施し、水漏れがないことを確認してください。
- ・ 供給元にウォーターホースを接続するとき、エアホースとの差し間違いに注意してください。

4 使用前の点検

使用前に以下の項目を確認してください。

- 本器に損傷がないこと。特に、水の流路、およびエアーの経路に損傷がないこと。
(エアホース、ウォーターホース、パウダーチャンバー、ハンドピースホース、ハンドピース、ペリオフローノズル)
- パウダーチャンバー、キャップリングのねじ山部、キャップドーム、キャップOリングが破損していたり、ひびや亀裂が入っていないこと。

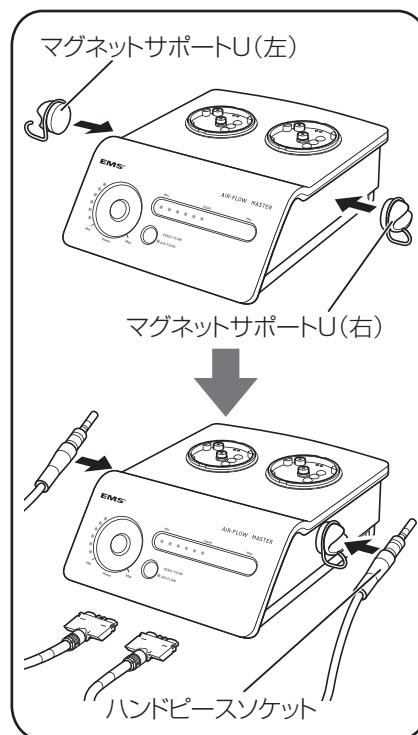
ハンドピースは、オートクレーブ滅菌器を使用して135℃・2気圧以下で3分以上滅菌処理を行なったものを使用してください。

詳細は50ページ「7 再使用器具の洗浄・消毒・滅菌処理方法」に記載された指示や手順に従ってください。

5 使用前の準備

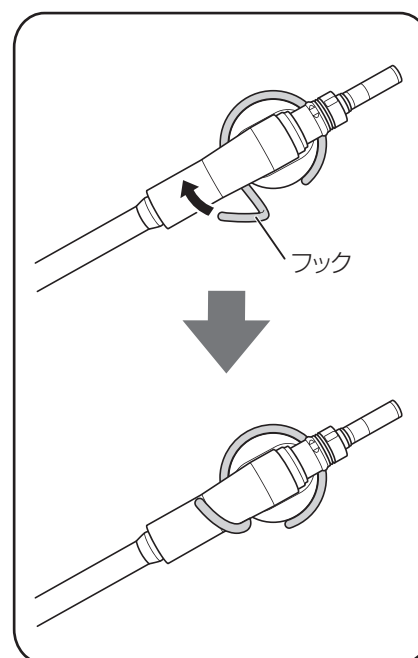
ハンドピースホースの接続

1. 本体の側面（左、右）または治療台など、磁性のある金属部分にマグネットサポートU（左、右）を吸着させ、ハンドピースソケットを保持させてください。



マグネットサポートUのフックを右の図の方向に回転させ、ハンドピースソケットが確実に固定されるように調整してください。（逆の方向には回転しません）

調整が不十分な場合、ハンドピースが落下するおそれがあります。



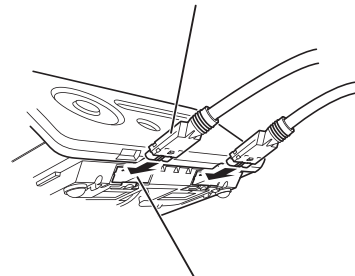
- 2.** ハンドピースホースプラグとハンドピースホースソケットから水滴、パウダーなどの付着物を取り除いてから、確実に接続してください。



注記

- ・ 付着したパウダーなどが水分で固まり、正確に接続できなくなるおそれがあります。
- ・ プラグとソケットの端子部分には、圧縮空気を直接吹き付けしないでください。本体内部およびハンドピースホースに損傷を与えるおそれがあります。

ハンドピースホースプラグ



ハンドピースホースソケット

エアフローパウダーの選択について

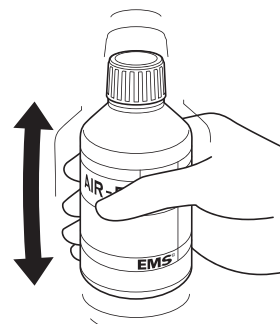
下記の表のとおり、用途に応じて使用するパウダーを選択してください。

用途	パウダー	主成分	最大粒径	平均粒径
強固なステイン除去	エアフローパウダー (レモン味)	炭酸水素ナトリウム	200 μm	65 μm
軽度のステイン除去 矯正装置周辺の歯面清掃	エアフローパウダー (ソフト)	グリシン	200 μm	65 μm
縁上・縁下のバイオフィルム除去 歯頸部付近やインプラント周辺の 歯面清掃	エアフローパウダー (ペリオ)	グリシン	150 μm	25 μm

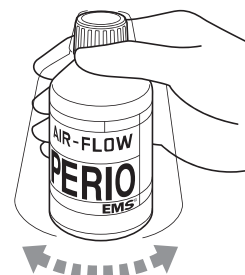


注記

- ・パウダーが目に入った場合は、すぐに大量の流水で洗浄し、眼科医の診察を受けてください。
- ・使用前にボトルを必ず2～3回振ってください。ただしエアフローパウダー（ペリオ）のボトルは、あまり強く振らないようにしてください。



エアフローパウダー(レモン味)
エアフローパウダー(ソフト)



エアフローパウダー(ペリオ)

エアフローパウダーの充填

次の表に従って、使用するエアフローパウダーとパウダーチャンバーの組み合わせを選択してください。

○：組み合わせ可 ×：組み合わせ不可

	エアフロー パウダーチャンバー	ペリオフロー パウダーチャンバー
エアフローパウダー（レモン味）	○	×
エアフローパウダー（ソフト）※	○	×
エアフローパウダー（ペリオ）※	×	○

※標準セット品には含まれません。別売の単品販売品をお求めください。

※歯周ポケットの治療に、誤ってエアフローパウダー（レモン味、ソフト）を使用しないでください。

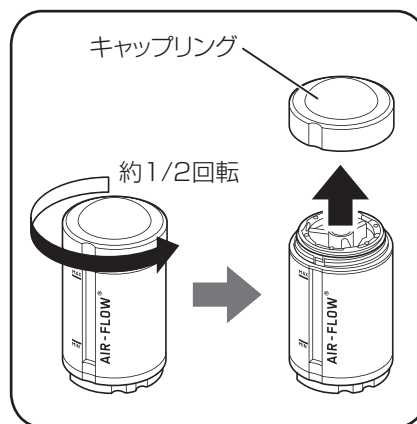
⚠ 禁忌・禁止 ●必ず純正のエアフローパウダーを使用すること。

⚠ 警告 ●歯周ポケットの治療には、必ず純正のペリオフローノズル、ペリオフローハンドピース、ペリオフローパウダーチャンバー、およびエアフローパウダー（ペリオ）を使用すること。

1. キャップリングを半時計方向に回して、取り外してください。



注記 加圧されたチャンバーホルダー上では、キャップリングを開けないでください。



2. 使用する種類のエアフローパウダーを、パウダーチャンバーの「MIN」と「MAX」ラインの間のレベルになるように充填してください。



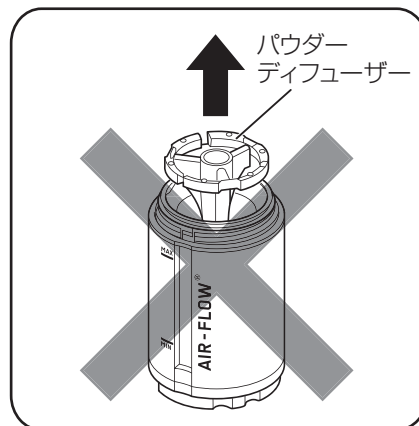
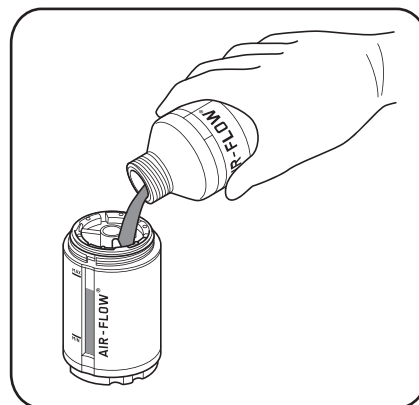
注記

- ・ パウダーチャンバーが完全に乾燥した状態で充填してください。乾燥していない状態で充填すると水分でパウダーが固まり、噴射できなくなったり、パウダーの経路が詰まるおそれがあります。
- ・ パウダーチャンバーとキャップリングのねじ部に付着したパウダーを清掃してください。
- ・ パウダーを充填するときに、パウダーチャンバーからパウダーディフューザーを取り外さないでください。

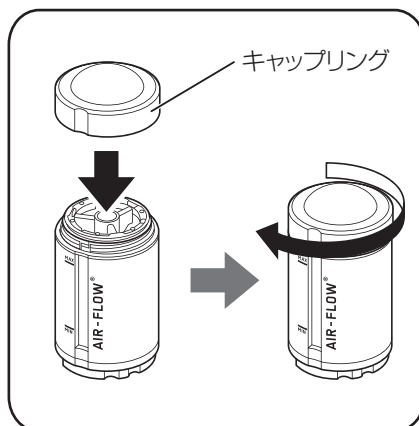


参考

選択したエアフローパウダーの種類を確認しやすくするため、カラーリングの使用をお勧めします。



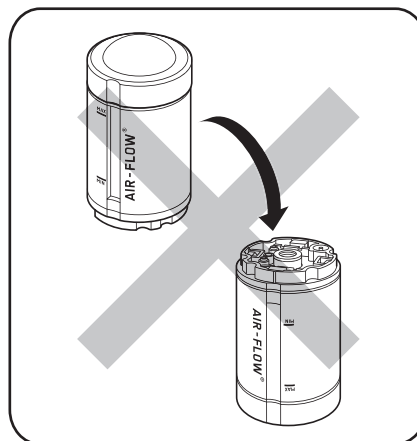
3. エアー漏れが発生しないように、キャップリングを確実に閉めてください。





注記

- ・ キャップの閉め方がゆるい場合、エアーが漏れてパウダーが飛散したり、キャップリングのねじ部にパウダーが詰まり、キャップリングが回らなくなるおそれがあります。
- ・ パウダーを充填しキャップリングを閉めた後に、パウダーチャンバーを逆さまにしないでください。元の向きに戻したときに、チャンバーから少量のパウダーが漏れることがあります。



- 4.** チャンバーホルダーにエントリーキャップが取り付けられていることを確認してから、パウダーチャンバーをチャンバーホルダーに確実に接続してください。



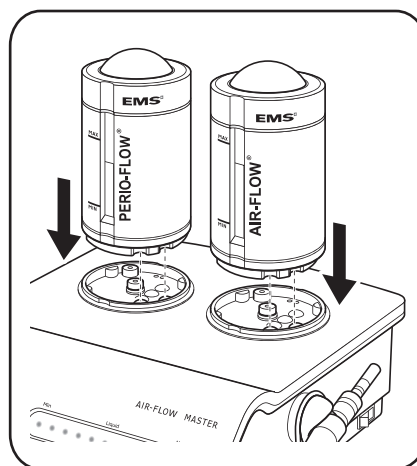
注記

- ・ エントリーキャップが取り付けられていない場合、エアーが漏れるおそれがあります。
- ・ 本器には、エアフローパウダーチャンバーとペリオフローパウダーチャンバーの接続状態を検出する機能があります。
(参照 →34 ページ)



参考

エアフローパウダーチャンバーおよびペリオフローパウダーチャンバーは、左右どちらのチャンバーホルダーにも接続できます。



エアフローS ソリッドハンドピースの接続

1. ハンドピースソケットをマグネットサポートUから取り外してください。
2. 水滴などが付着していないことを確認し、エアフローS ソリッドハンドピースをハンドピースソケットに接続してください。

⚠ 注意

- 必ずエアフローパウダーチャンバーと同じ側のハンドピースソケットに接続してください。
- ハンドピースをハンドピースソケットに接続する前に水滴を拭き取り、乾燥させてください。



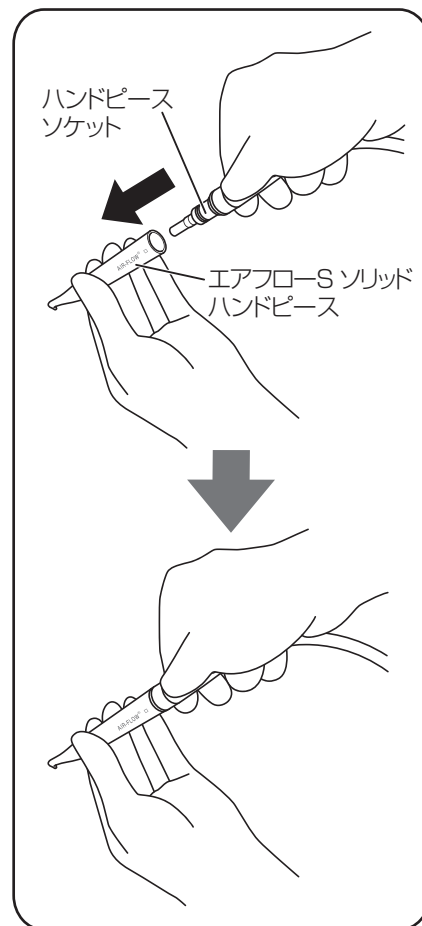
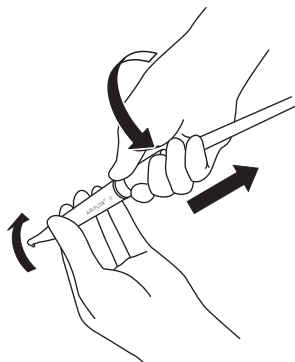
注記

ハンドピースホースのホース部分を強い力で引っ張ったり、ねじったりしないでください。



参考

ハンドピースソケットとハンドピースをねじりながら引っ張ると、スムーズに取り外すことができます。



3. ハンドピースをマグネットサポートUに取り付けてください。



注記

- ・ハンドピースをマグネットサポートUに取り付けるときは、必ずハンドピースの先端を下向きにしてください。
- ・本体を動作させるときに使用しないハンドピースおよびハンドピースソケットは、マグネットサポートUに取り付けておいてください。

ペリオフローハンドピースの接続

1. ハンドピースソケットをマグネットサポートUから取り外してください。
2. 水滴などが付着していないことを確認し、ペリオフローハンドピースをハンドピースソケットに接続してください。

⚠ 注意

- 必ずペリオフローパウダーチャンバーと同じ側のハンドピースソケットに接続してください。
- ハンドピースをハンドピースソケットに接続する前に水滴を拭き取り、乾燥させてください。



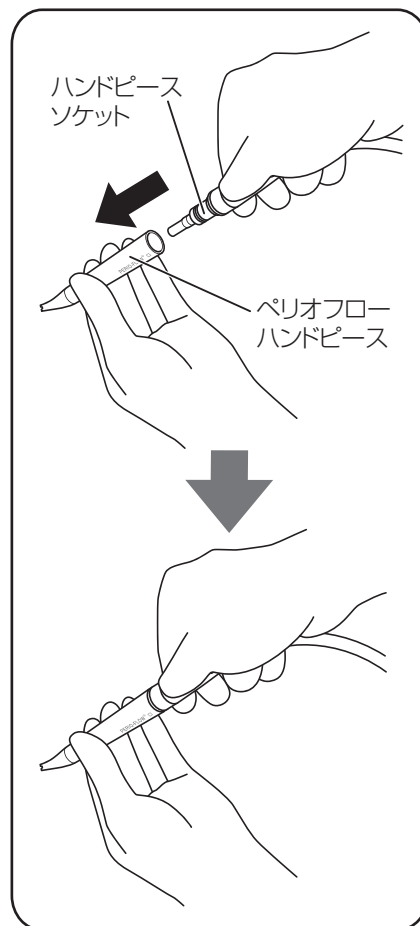
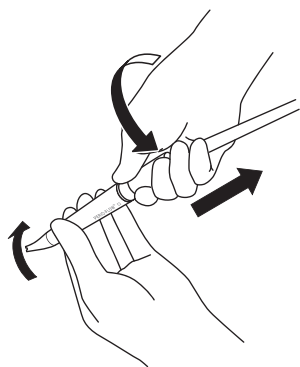
注記

ハンドピースホースのホース部分を強い力で引っ張ったり、ねじったりしないでください。



参考

ハンドピースソケットとハンドピースをねじりながら引っ張ると、スムーズに取り外すことができます。



3. ハンドピースをマグネットサポートUに取り付けてください。

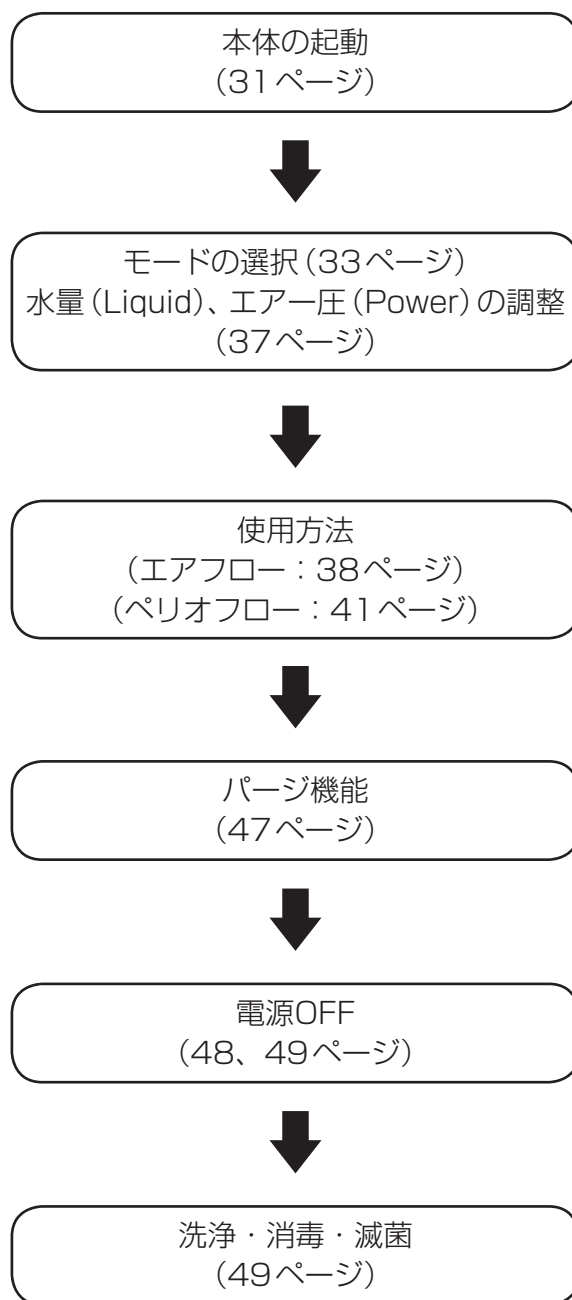


注記

- ・ハンドピースをマグネットサポートUに取り付けるときは、必ずハンドピースの先端を下向きにしてください。
- ・本体を動作させるときに使用しないハンドピースおよびハンドピースソケットは、マグネットサポートUに取り付けておいてください。

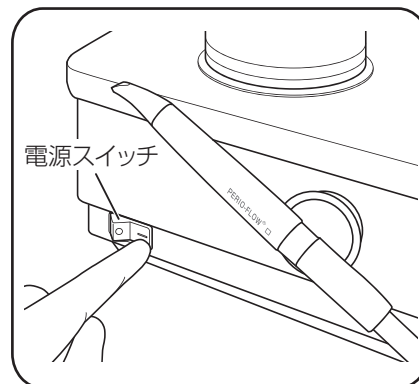
6 操作のしかた

治療の流れ



本体の起動

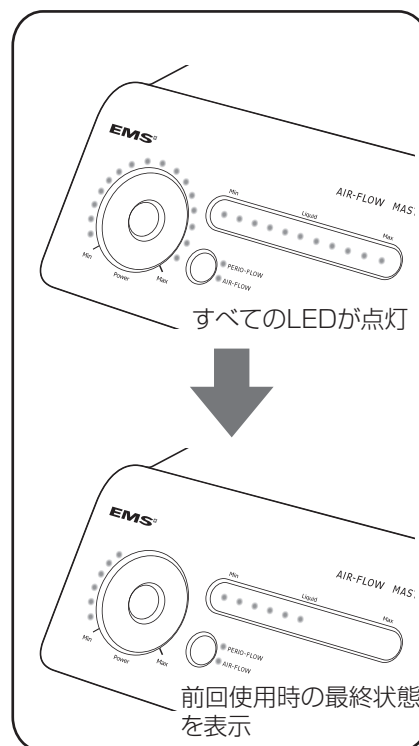
1. 本体左側面の電源スイッチをONにしてください。



2. ブザー音とともに操作パネルのタッチパネル部のLEDが一旦すべて点灯し、パウダーチャンバーが加圧されます。

●メモリ機能

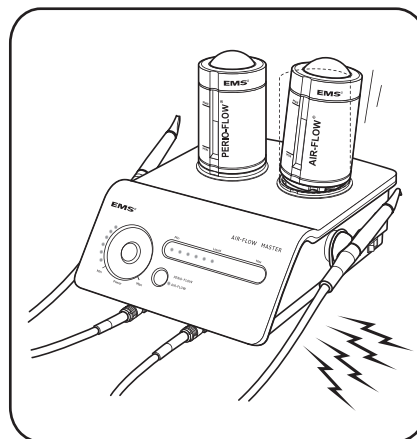
本器は電源スイッチをOFFにしたときの最終の設定を記憶します。「本体の起動」手順2.の後に、短いブザー音とともに前回使用時の最終状態が呼び出されます。





注記

- ・ハンドピースホースが本体に正常に接続されていない場合、ハンドピースをマグネットサポートUから取り外したとき、それぞれのハンドピースに対応するチャンバーホルダーのLEDは点灯しません。また、片側のハンドピースホースだけが抜けていた場合、電源をOFFにするとセルフクリーニング(参照 →49ページ) が動作し、パウダーが飛散するため注意してください。
- ・パウダーチャンバーが本体に正常に接続されていない場合、「本体の起動」手順1.の後にブザーが鳴ります。



参考

- ・パウダーチャンバーへの加圧は、パウダーディフューザーからパウダーが拡散することで確認できます。
- ・本器は、ハンドピースをマグネットサポートUから取り外すことによって、使用する(動作させる)ハンドピースとパウダーチャンバーを検知します。このとき、取り外したハンドピースと同じ側のチャンバーホルダーのLEDが点灯します。
- ・ハンドピースとパウダーチャンバーは、同じ側の組み合わせの場合のみ使用できます。

スタンバイモード

15分間操作しなかった場合、本器は自動的にスタンバイモードになります。
PERIO-FLOW (ペリオフロー) モードのLEDが点滅し、他のすべてのLEDが消灯します。

●スタンバイモードの解除

操作パネル上のパワーコントローラー、ウォーターコントローラー、モード選択スイッチなどのタッチセンサ部に指を触れることで、直前の設定状態に戻ります。



参考

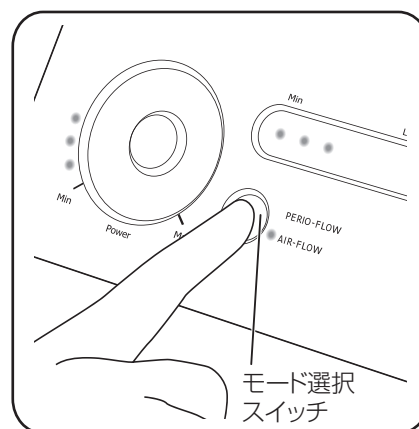
1時間操作しなかった場合、自動的にパージ機能(参照 →47ページ) が動作し、パウダーチャンバーへの加圧が開放されます。操作パネル上のパワーコントローラー、ウォーターコントローラー、モード選択スイッチなどのタッチセンサ部に触れると、パウダーチャンバーが再び加圧されます。

モードの選択

本器には、エアフローモードとペリオフローモードの2種類があります。

モード	概 要
エアフローモード (AIR-FLOW) 	出力するエアー圧の 0～100% の範囲でエアー圧を設定できます。
ペリオフローモード (PERIO-FLOW) 	出力するエアー圧を、エアフローモード使用時の約 80% に下げます。

1. モード選択スイッチのタッチセンサ部に指を触れ、AIR-FLOW (エアフローモード) / PERIO-FLOW (ペリオフローモード) のいずれかのモードを選んでください。



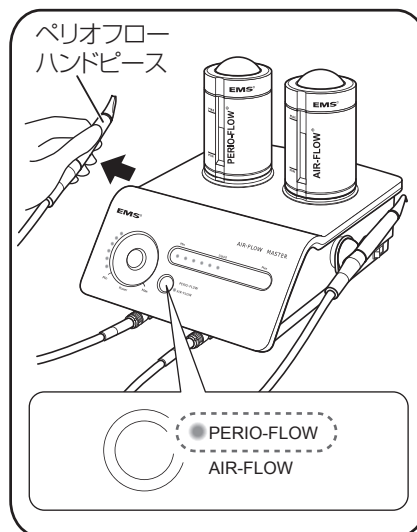
ペリオフローパウダーチャンバーの検知について

ペリオフローパウダーチャンバーを本体に接続した場合、モードの最終設定にかかわらず、ペリオフローハンドピースをマグネットサポートUから取り外したときに自動的にペリオフローモードに設定されます。



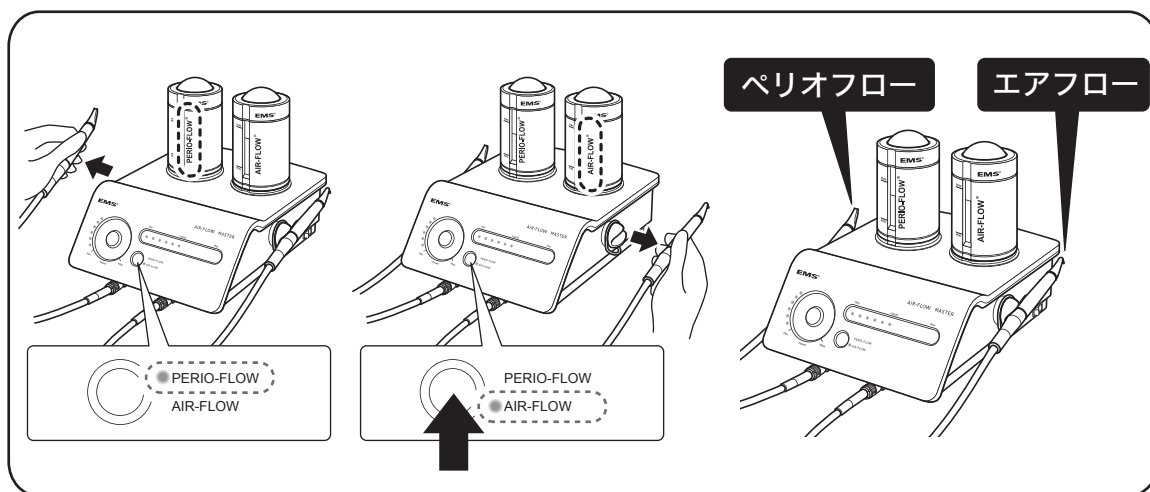
注記

エア圧および水量設定は最終設定のままです。



参考

- ・ 2本のハンドピースが接続されている場合、左右それぞれのハンドピースを異なったモードに設定できます。
- ・ エアフローパウダーチャンバーを取り付けた場合は、エアフローモードとペリオフローモードのいずれも選択できます。



フットコントローラーの操作

フットコントローラーには、それぞれ異なった機能を持つ4つのペダルがあります。治療の状況に合わせて、踏むペダルを使い分けてください。

ペダル④

ブーストペダル

ペダル②(トリートメントペダル)と同時に踏むと、ブースト機能が働き、エア圧(Power)が

約30%増加します。

( 参照 →36 ページ)



注記 ペリオフローモードのときは、ペダルを踏んでもブースト機能は動作しません。また、5秒間隔のブザー報知機能が働かなくなります。

( 参照 →45 ページ)

ペダル①

ウェットペダル

このペダルを踏むと、ハンドピースの先端(ノズル)から、

エアーと**水**が噴射されます。



ペダルを踏んでいる間、チャンバーホルダーのLEDが消灯します。

ペダル③

ドライペダル

このペダルを踏むと、ハンドピースの先端(ノズル)から、

エアーだけが噴射されます。



ペダルを踏んでいる間、チャンバーホルダーのLEDが消灯します。

ペダル②

トリートメントペダル

このペダルを踏むと、ハンドピースの先端(ノズル)から、

エアーと**水**と**パウダー**が噴射されます。



注記 ペリオフローモードでは、ペダルを踏んでいる間、5秒間隔でブザーが鳴ります。詳細は「ペリオフローモード使用時のブザーについて」を参照してください。

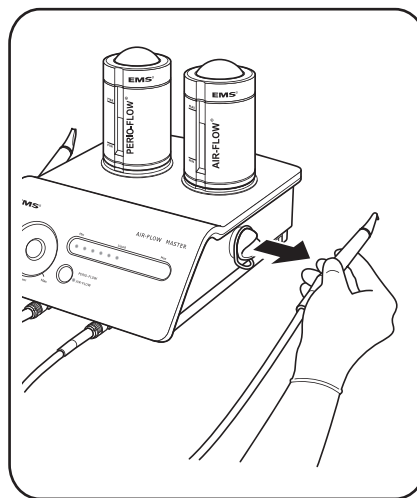
( 参照 →45 ページ)

1. ハンドピースをマグネットサポートUから取り外してください。



注記

ハンドピースがマグネットサポートUに取り付けられているときは、フットコントローラーのペダルを踏んでも本器は動作しません。



2. 治療に適したペダルを踏んでください。



注記

- ・ パウダーを噴出させる操作を行なった後でペダル①（ウェットペダル）またはペダル③（ドライペダル）を踏んだ場合、しばらくの間パウダーが噴出することがあります。
- ・ 操作の直後、水またはパウダーがしばらくの間噴出されないことがあります。

●ブースト機能について

ペダル②（トリートメントペダル）とペダル④（ブーストペダル）を同時に踏むと、ペダル②を単独で踏んでいるときよりもエア圧を約30%増加させることができます。なお、エア圧の上限は本器の最大出力（100%）となります。



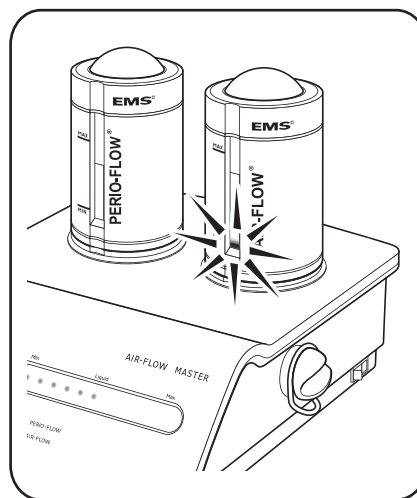
注記

ペリオフローモード（PERIO-FLOW）が選択されている場合は、ブースト機能は動作しません。



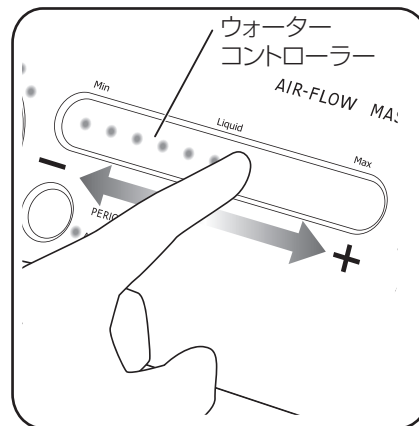
参考

ブースト機能の動作中は、チャンバーホルダーのLEDが点滅します。



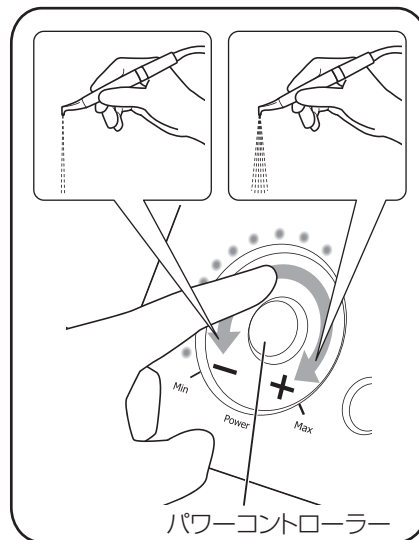
水量の調整

操作パネル上のウォーターコントローラーのタッチセンサ部を指でなぞるか長押しして、水量 (Liquid) を調整します。



エア圧の調整

操作パネル上のパワーコントローラーのタッチセンサ部を指でなぞるか長押しして、エア圧 (Power) を調整します。

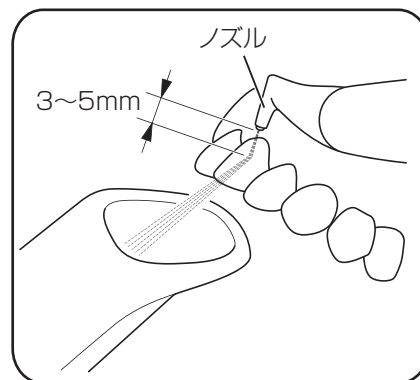


エアフローの使用方法

●気腫について

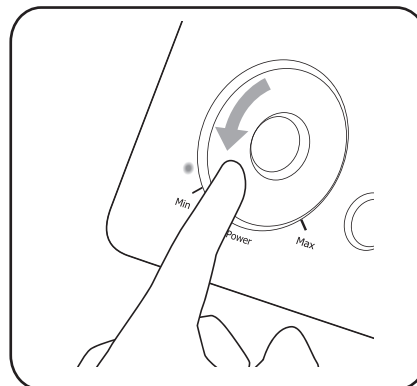
⚠ 禁忌・禁止

- 気腫を生じるおそれがあるため、エアフローS ソリッドハンドピースを使用するときは以下の注意事項を厳守すること。
 - ・ 歯肉に向けて直接噴射しないこと。
 - ・ 噴射は、歯頸部から切端（咬頭）方向に流れる向きで使用する。
 - ・ 歯肉に近い部位の清掃は、噴流の周辺を使用すること。
 - ・ ハンドピースのノズル先端から歯面までの距離は3～5mmを守ること。



●水量の調整

1. パワーコントローラーでエア圧（Power）を最小値（LEDが1個点灯）に設定してください。



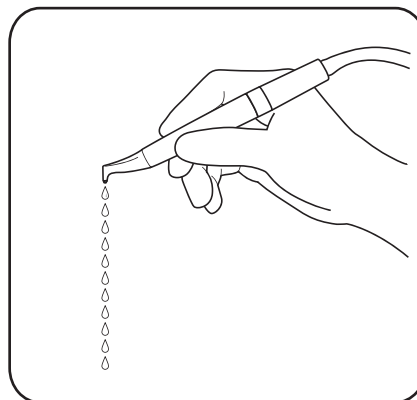
2. ペダル①（ウェットペダル）を踏み、エアが噴射されず、加温された水だけがハンドピースの先端から出ることを確認してください。

3. ハンドピースの先端から水滴が途切れない程度に継続して出るように、ウォーターコントローラーでゆっくり流量を調整してください。



注記

- ・ 最大水量から継続的な量に絞り込んでください。
- ・ 歯牙を痛めるおそれがあるため、患者の知覚状況やステインの取れ具合などに合わせて適宜調整してください。
- ・ 水の出し過ぎは清掃効果を低下させることがあります。



●エア圧の調整

パワーコントローラーは、目安として中間位置に設定してください。



注記

- ・ 歯牙を痛めるおそれや、患者の知覚状況やステインの取れ具合などに合わせて適宜調整してください。
- ・ 点灯するLEDはエアおよびパウダーの流量の目安です。
- ・ LEDの点灯が1個のときは、エアは噴射されません。

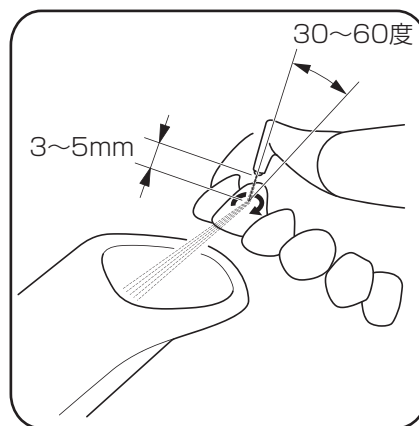
●術式

歯肉縁上の治療は、下記の組み合わせ（エアフローシステム）の場合のみ可能です。

モード	パウダー	パウダーチャンバー	ハンドピース
エアフローモード ペリオフローモード	エアフローパウダー (レモン味) エアフローパウダー (ソフト)	エアフローパウダー チャンバー	エアフローS ソリッド ハンドピース
	エアフローパウダー (ペリオ)	ペリオフローパウダー チャンバー	

1. 治療に適したエア圧および水量調整を、口腔外で行なってください。
2. 咬合面から清掃を始めてください。

3. 歯面に噴射する場合は、ノズル（ハンドピース先端）を切端方向へ向け、ノズルと患部の間隔を一定（3～5mm）に保ちながら、30～60度の範囲で角度を変化させてください。また、小さな円を描くように噴射してください。



注記

- ・ 歯肉付近はエア圧を弱くして使用してください。
- ・ 歯面に対して垂直に噴射しないでください。
- ・ 術者および患者は保護眼鏡を着用してください。
- ・ エアフローモードでの使用後、エアフローS ソリッドハンドピースをマグネットサポートUに取り付けた際、反対側に接続されているハンドピースがペリオフローハンドピースの場合、エア圧を下げるため自動的にペリオフローハンドピースから圧力が開放されるときがありますが、異常ありません。



参考

- ・ パウダーが飛散するため、適宜患者に保護を施してください。
- ・ 歯面とハンドピースの角度を小さくするほど、より広い面積を清掃できます。
- ・ 治療中は、歯から反射するエア／パウダーの噴流に対向する位置にバキュームを配置してください。

ペリオフローの使用方法

●菌血症について

⚠ 禁忌・禁止

- 次の患者に対する深い歯周ポケットへの使用は菌血症を生じるおそれがあるため、ペリオフローシステムの使用を避けること。
 - ・ 心内膜炎のある患者
 - ・ 妊娠中、授乳中の患者
 - ・ 伝染病の患者
 - ・ 免疫不全症(好中球減少症、顆粒球減少症、無顆粒球症、糖尿病、血友病)の患者
 - ・ 放射線治療中、化学療法中、抗生物質投与中の患者

●気腫について

⚠ 禁忌・禁止

- 気腫を生じるおそれがあるため、ペリオフローシステムは歯周病治療後のメンテナンスなど、健康な歯周ポケットの患者のみに使用し、それ以外の患者には使用しないこと。
- 気腫発生のおそれがあるため、使用前に必ず歯周ポケットの深さ計測(フローピング)やX線撮影を行い、次の条件を満たす歯周ポケットのみに使用すること。
 - ・ 歯周病が原因で生じた歯周ポケット
 - ・ 根尖から歯槽骨頂までの高さが3mm以上の歯周ポケット
 - ・ 根尖から歯肉溝底までが3mmを超える歯周ポケット

⚠ 警告

- 歯周ポケットの治療には、必ず純正のペリオフローノズル、ペリオフローハンドピース、ペリオフローチャンバー、およびエアフローパウダー(ペリオ)を使用すること。

●水量の調整

ウォーターコントローラーは、目安として中間位置に設定してください。

●エア圧の調整

パワーコントローラーは、目安として最小(LEDが2個点灯)に設定してください。



注記

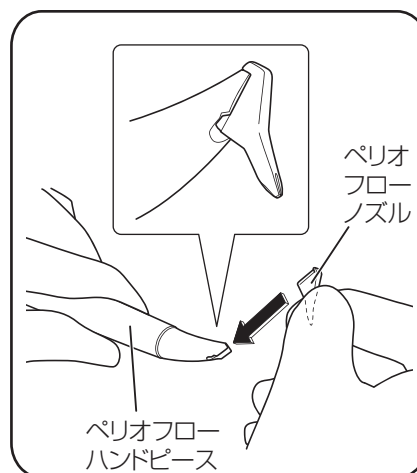
上記の目安の値でも十分な治療効果が得られますが、処置に応じて適切な値に調整してください。

●術式

歯周ポケットの治療は、下記表の組み合わせ（ペリオフローシステム）の場合のみ可能です。

モード	パウダー	パウダーチャンバー	ハンドピース
ペリオフローモード	エアフローパウダー (ペリオ)	ペリオフロー パウダーチャンバー	ペリオフロー ハンドピース

1. ペリオフローハンドピースにペリオフローノズルを取り付けてください。



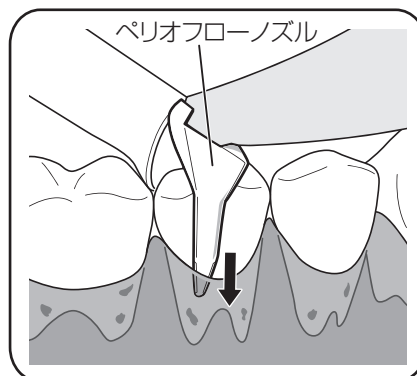
⚠ 禁忌・禁止 ●ペリオフローノズルは再使用しないこと。

⚠ 警告 ●ペリオフローノズルは滅菌しないこと。
●ペリオフローノズルのパッケージが破れていたり、隙間が生じていたり、損傷している疑いがあるときは、使用しないこと。また、ペリオフローノズル自体が損傷している場合も使用しないこと。

2. 治療に適したエアー圧および水量の調整を最初は口腔外で行い、噴霧を確認してください。

⚠ 警告 ●エアー圧は、最大でも噴霧が歯周ポケットから少し出る程度に抑えること。
●水が供給されない状態では、絶対にペリオフローハンドピースを使わないこと。

3. ペリオフローノズルを治療に適した位置まで（ただし3mm以上）挿入してください。



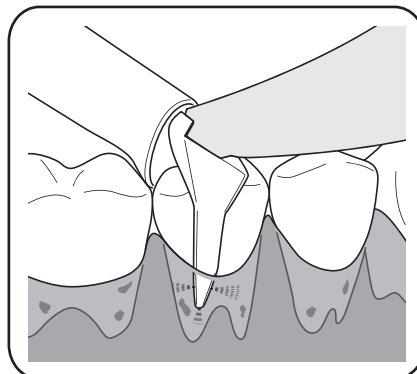
⚠ 禁忌・禁止

- 歯周ポケットの歯面のスケーリング処置直後に、同一部位へのペリオフローノズルの使用は行わないこと。
- ペリオフローノズルを歯周ポケットに強く押し入れないこと。
- ペリオフローノズルの先端を歯周ポケットの底に当てたまま噴射しないこと。
- 同一の治療で、同一の歯周ポケット部位にペリオフローノズルを2回以上挿入しないこと。



- ・ 歯面に沿って縦方向に移動させながら治療を行う場合は、先端が歯周ポケットの底に当たらない範囲で最も深い位置から開始してください。
- ・ 歯面に沿って横方向に移動させながら治療を行う場合は、先端が歯周ポケットの底に当たらない位置から開始してください。
- ・ ペリオフローノズルは、歯周ポケットの5mmより深い位置まで清掃できる長さになっています。
- ・ 歯周ポケットの外で噴射しないでください。

4. ペダル②(トリートメントペダル)を踏み込み(最大5秒間まで)、処置を行なってください。



⚠ 禁忌・禁止

- 同一歯周ポケット内での噴射は最大5秒間とし、それ以上は絶対行わないこと。

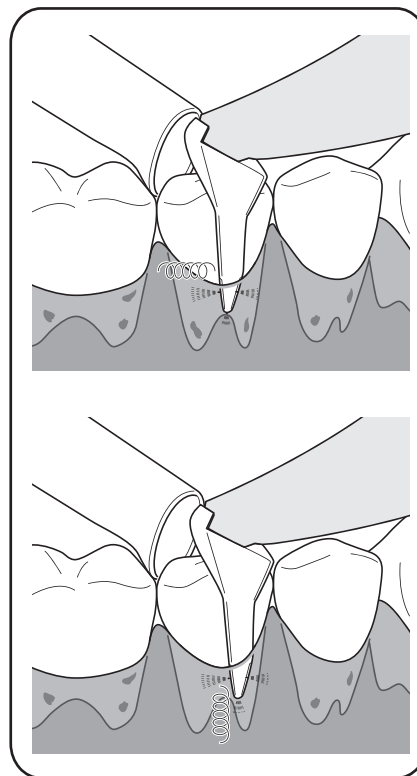
⚠ 警告

- エアー圧は、最大でも噴霧が歯周ポケットから少し出る程度に抑えること。

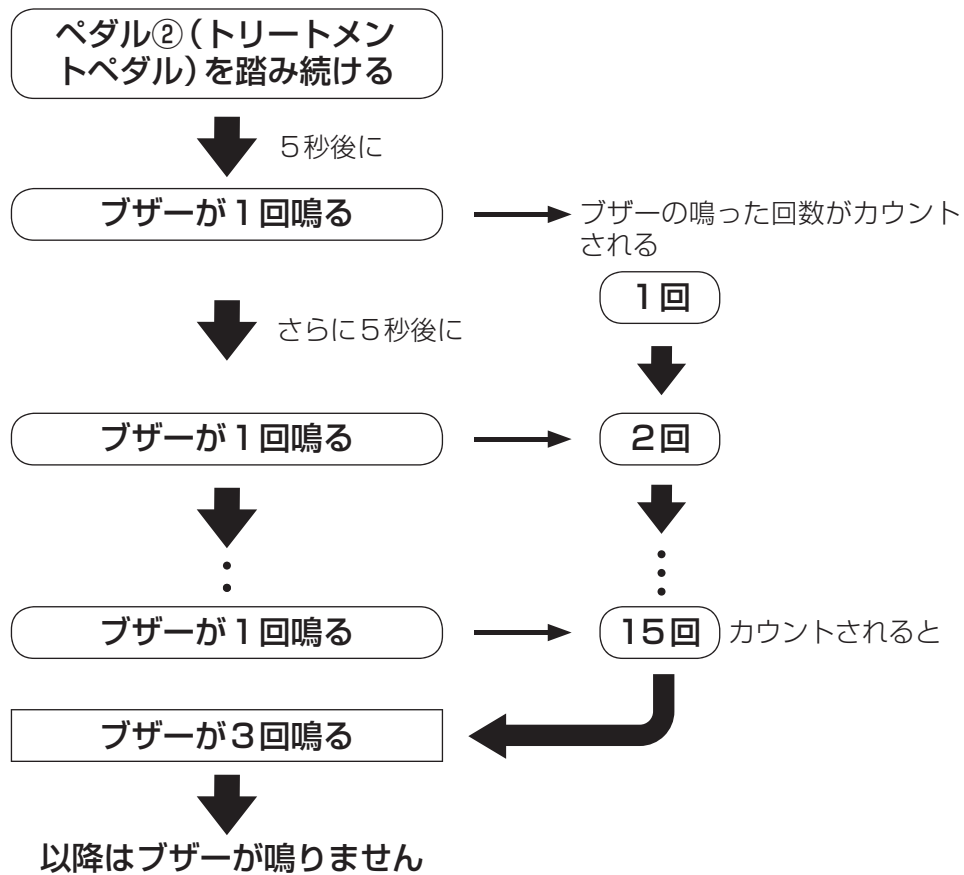


参考

- ・ ペリオフローノズルを歯面の縦方向(歯周ポケットから抜く方向)または横方向に移動させて処置を行なってください。
- ・ 往復運動や一部回転運動を交えながら移動させると、効率良く処置を行うことができます。



ペリオフローモード使用時のブザーについて



警告

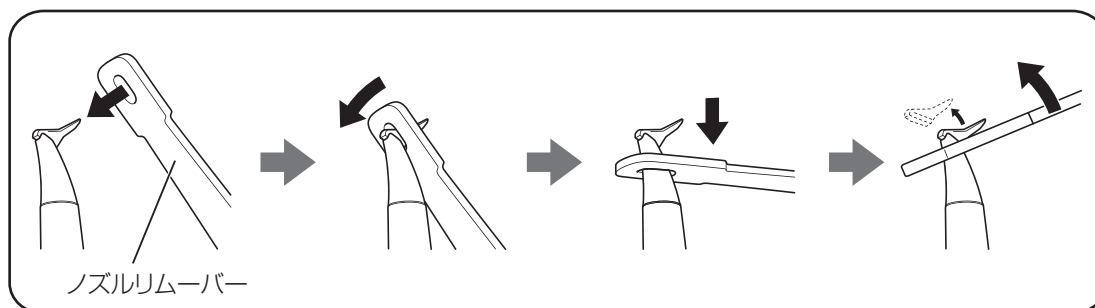
- 5秒間隔のブザー報知機能が働かなくなるため、ペリオフローシステムではペダル④(ブーストペダル)を踏まないこと。



参考

15秒以上ペダルを踏むのをやめると、その時点でカウンタは「0回」にリセットされます。

5. 治療終了後、ノズルリムーバーを使用してペリオフローハンドピースからペリオフローノズルを取り外してください。



6. 取り外したペリオフローノズルを破棄してください。



パージ機能

パージ機能は、パウダーチャンバー内の圧力を開放するものです。この機能により、本体、ハンドピース、およびハンドピースホース内での次のような現象を防ぐことができます。

- ・ 残留パウダーが水分で固まり、詰まりの原因となること
- ・ 他の種類のパウダーを使用するときに、パウダーが混合してしまうこと



注記 パージは必ず患者ごとに行なってください。

1. 治療終了後またはパウダーチャンバーを交換するときに、両方のハンドピースをシンクなどに向けてから、本体右側面のパージスイッチを押してください。約15秒間パージが行われ、両側のハンドピースから残留パウダーと残留水が噴出されます。



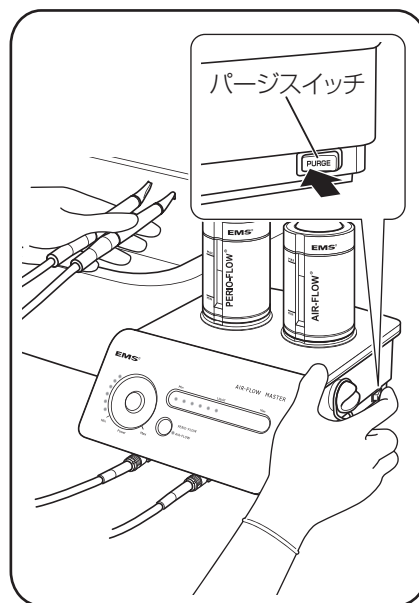
注記

- ・ ハンドピースがマグネットサポートUに取り付けられている状態でも、左右両方のハンドピースで動作します。
- ・ 必ずハンドピースおよびハンドピースホースを取り付けた状態で行なってください。
- ・ パージ中にパージスイッチを押すと、動作を中断させることができます。



参考

パージ中はチャンバーホルダーのLEDが点滅します。

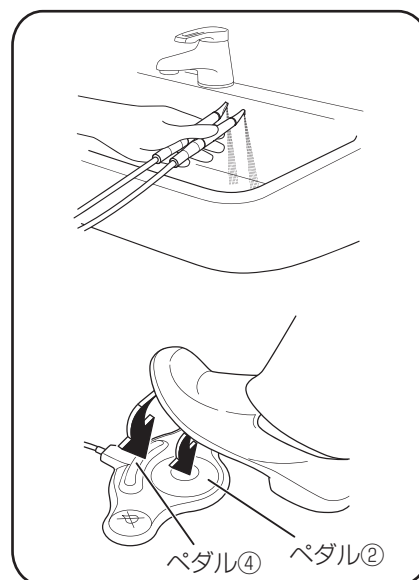


2. 本体、ハンドピース、およびハンドピースホース内の残留水をほぼ完全に除去するため、ハンドピースをシンクなどに向け、残留水が出なくなるまでペダル②（トリートメントペダル）または④（ブーストペダル）を踏み続けてください。



注記

- ・ パージ後、約35秒経過するとブザーが3回鳴り、上記の残留水の除去操作が効かなくなります。
- ・ マグネットサポートUから取り外した状態のハンドピースのみ、残留水を除去できます。
- ・ ペダルから足を離してから約35秒経過するとブザーが3回鳴り、パウダーチャンバーの再加圧が始まります。

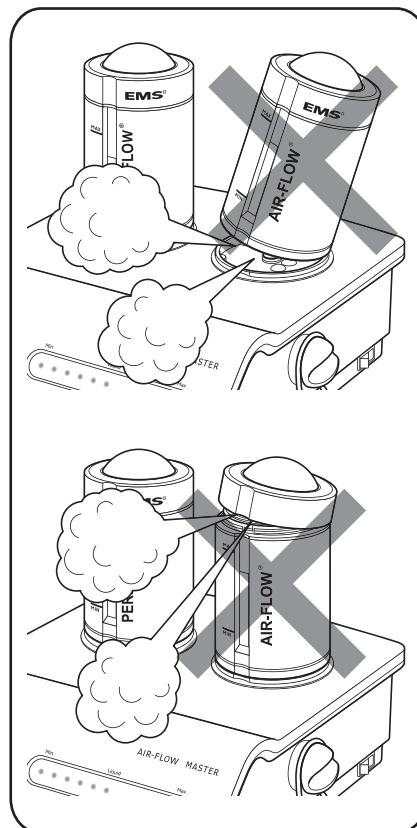


3. パージ終了後、パウダーチャンバーを取り外し、乾燥した場所に保管してください。



注記

- ・ パージ終了後、約35秒経過するとブザーが3回鳴り、パウダーチャンバーの再加圧が始まります。
- ・ パージ終了後にパウダーチャンバーを取り外したいときは、再加圧される前（約35秒経過する前）に行なってください。
- ・ パウダーチャンバーが加圧されているときに、チャンバーホルダーから取り外したり、キャップリングを開けたりしないでください。パウダーが飛散し、周辺の機器に影響を及ぼすおそれがあります。
- ・ どちらか一方でもパウダーチャンバーをチャンバーホルダーから取り外すと、パウダーチャンバーは再加圧されません。
- ・ パウダーチャンバーを再びチャンバーホルダーに装着すると、自動的に再加圧が始まります。



4. ハンドピースをマグネットサポートUに取り付け、治療を終了する場合は本体の電源スイッチをOFFにしてください。



注記

治療を続けるためパウダーチャンバーを交換する場合は、使用するパウダーチャンバーを本体に接続してください。自動的にパウダーチャンバーが加圧されます。

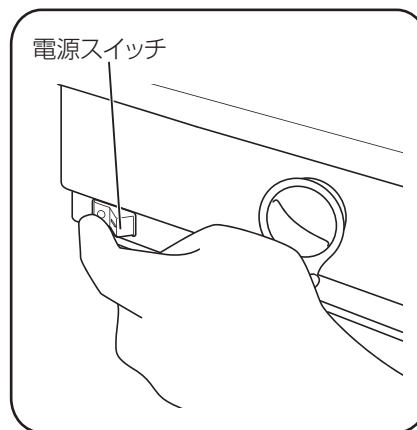
セルフクリーニング機構

パウダーチャンバーが加圧されている状態で電源スイッチをOFFにすると、パウダーチャンバー内の圧力が開放され、ハンドピースから残留パウダーと残留水が噴出・除去されます。



注記

ほぼ完全に残留パウダーおよび残留水を除去したいときは、パージ機能を使用してください。



洗浄・消毒・滅菌

「7 再使用器具の洗浄・消毒・滅菌処理方法」に従って、再使用器具の洗浄・消毒・滅菌を行なってください。

7 再使用器具の洗浄・消毒・滅菌処理方法

基本原則

効果的な洗浄・消毒の後、はじめて効果的な滅菌処理が実行できます。本器使用時の滅菌に関するユーザー責任の一部として、洗浄・消毒および滅菌時には、十分に確認された機器および製品に適した手順が採用され、あらゆる滅菌サイクルで有効なパラメーターが順守されていることを確認してください。

また、病院・医院の衛生規則と同様に、国内で適用される法律を順守してください。これは特に、プリオン(感染能を持つタンパク質因子)の不活性化のための要求事項に関しても適用されます。

●再使用器具の処理方法

ハンドピース、マグネットサポートU、清掃針、ステリボックスなど

ハンドピースの洗浄・消毒・滅菌

1. ハンドピースをハンドピースソケットから取り外してください。



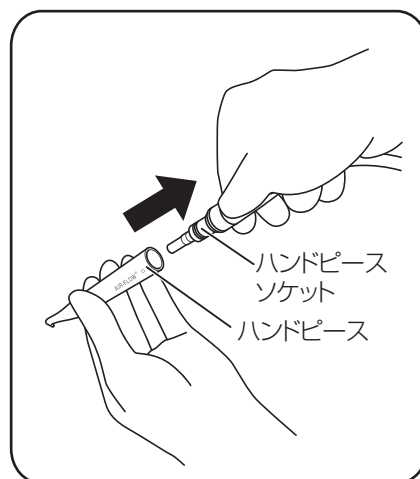
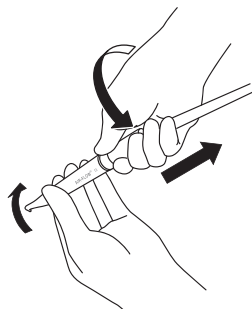
注記

ハンドピースホースのホース部分を引っ張らないでください。

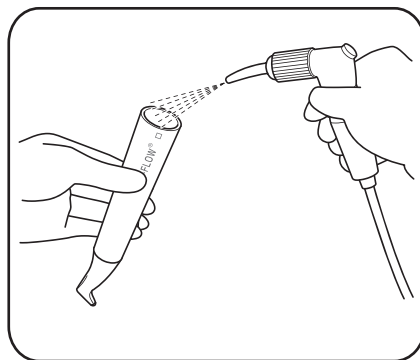


参考

ハンドピースソケットとハンドピースをねじりながら引っ張ると、スムーズに取り外すことができます。



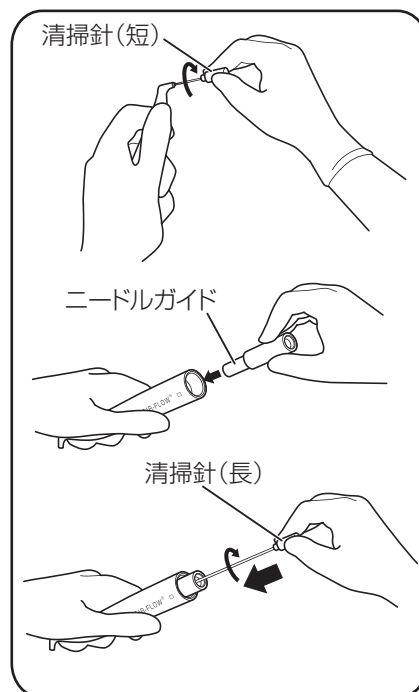
2. ハンドピースに付着した水滴などをエアーで取り除いてください。



3. パウダーの詰まりを防ぐため、清掃針を使用してハンドピースを清掃してください。

<エアフローS ソリッドハンドピース>

エアフローS ソリッド用清掃針（短）をハンドピースの先端方向から、また、エアフローS ソリッド清掃針（長）をニードルガイドを使用してハンドピースソケット接続部から、いずれも回しながら挿入してください。



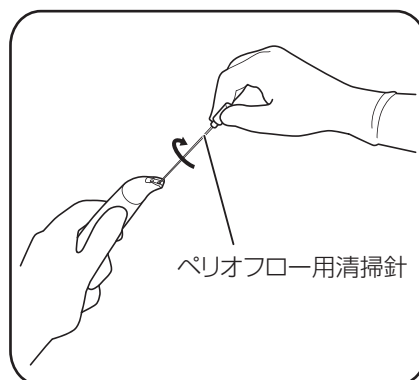
<ペリオフローハンドピース>

ペリオフロー用清掃針をハンドピース先端方向から回しながら挿入してください。

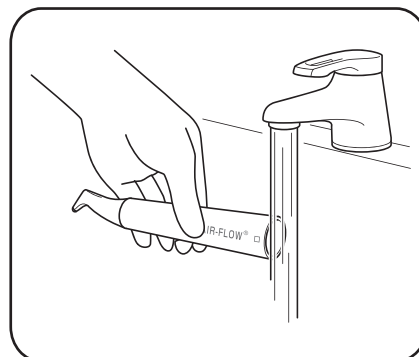


注記

清掃していないハンドピースを水などに浸さないでください。残留パウダーが固まり、ハンドピースにパウダーが詰まるおそれがあります。



4. ハンドピースを流水で洗浄してください。



5. アルコール系無色の市販消毒液（エタノール、イソプロパノール）で清拭してください。

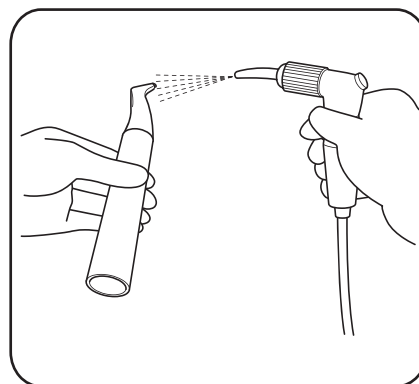


注記

- ・ 表面に傷が付くため、研磨剤や研磨スポンジは使用しないでください。
- ・ 新しい消毒液だけを使用し、メーカーによって規定された濃度や接触時間を厳守してください。また、消毒液を泡立てないでください。
- ・ パウダーが固まるおそれがあるため、パウダーの流路を消毒液で清拭しないでください。

6. 消毒後、速やかにハンドピース、清掃針などをステリボックスまたは滅菌バッグに入れ、 135°C ・2気圧以下で3分以上、オートクレーブで滅菌してください。

7. 滅菌したハンドピースの先端部と接続部をエアーで乾燥させてください。



●滅菌および包装について

- ・ 洗浄／消毒された物のみを滅菌処理してください。滅菌の前に、ハンドピース、清掃針などの器具はステリボックスまたは適切な滅菌力セットに収納保管してください。
- ・ 滅菌力セットについては、次の項目を確認してください。
 1. ISO 11607^{*1}に準拠している必要があります。
 2. 耐熱138℃で十分な蒸気透過性を有すること。
 3. 定期的にメンテナンスされていること。
- ・ 使い捨て滅菌二重包装（ダブルバッグ）を使用する場合には、ISO 11607に準拠し、十分な蒸気透過性を伴い138℃の耐熱性のある高圧蒸気滅菌に適合している必要があります。



注記

滅菌バッグに入れずにオートクレーブ滅菌すると、ステリボックス表面に汚れが残る場合があります。

- ・ 滅菌処理は次の高圧蒸気滅菌法でのみ行なってください。その他の滅菌法は認められません。
 1. 真空脱気式高圧蒸気滅菌法を採用してください。
 2. EN 13060^{*2}あるいはEN 285^{*3}に準拠した蒸気滅菌器を採用してください。
 3. 滅菌時間は135℃・2気圧以下で3分以上行なってください。
- ・ 乾熱滅菌や放射線照射滅菌法は、再使用器具の破損につながるため使用できません。
- ・ 他の滅菌方法（例えばEOG、ホルムアルデヒドおよび低温度プラズマ滅菌法）の使用について、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

ハンドピースホースの清掃

1. ハンドピースホースのホース部分をアルコール系無色の市販消毒液（エタノール、イソプロパノール）で清拭してください。



注記

- ・ ハンドピースホースは滅菌処理できません。
- ・ 表面に傷が付くため、研磨剤や研磨スポンジは使用しないでください。
- ・ パウダーが固まるおそれがあるため、ハンドピースホースプラグおよびハンドピースソケットなどのパウダー流経路を消毒液で清拭しないでください。
- ・ ハンドピースホースを消毒液に浸さないでください。

2. ハンドピースホースプラグおよびハンドピースソケットを清掃してください。



注記

清掃しないまま使用すると、パウダーが固まり、詰まるおそれがあります。

本体の清掃

1. 本体の表面をアルコール系無色の市販消毒液（エタノール、イソプロパノール）で清拭してください。



注記

- ・ 本体は滅菌処理できません。
- ・ 機器表面に傷が付くため、研磨剤や研磨スポンジは使用しないでください。
- ・ パウダーが固まるおそれがあるため、チャンバーホルダーおよびハンドピースホースソケットなどのパウダー流経路を消毒液で清拭しないでください。
- ・ 本体を清掃するときは、必ずチャンバーホルダーにエントリーキャップを装着した状態で行なってください。
- ・ エントリーキャップの清掃に、清掃針などの針状のものを使用しないでください。

2. ハンドピースホースソケットにパウダーが残留しないように清掃してください。

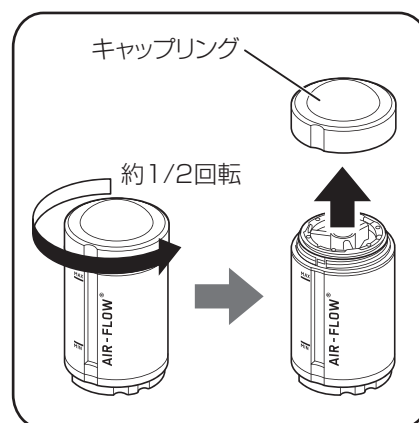


注記

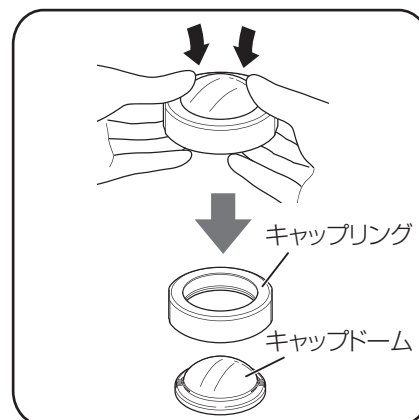
清掃しないまま使用するとパウダーが固まり、ハンドピースホースを正確に接続できなくなるおそれがあります。

パウダーチャンバーの清掃

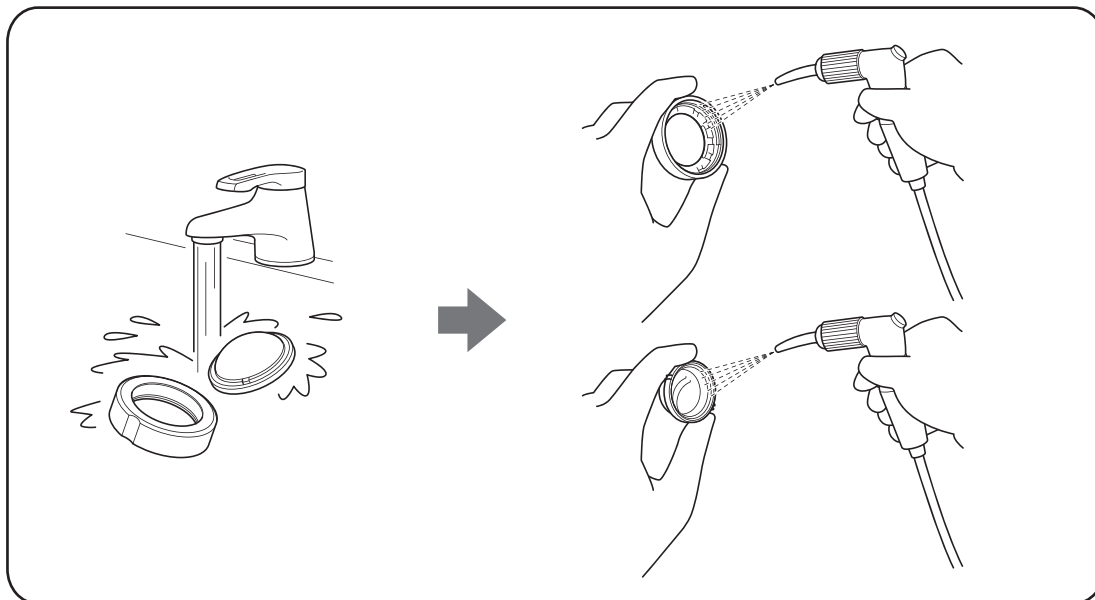
1. パウダーチャンバーからキャップリングを取り外してください。



2. キャップリングからキャップドームを取り外してください。



3. キャップリングとキャップドームを流水で洗浄し、乾燥させてください。

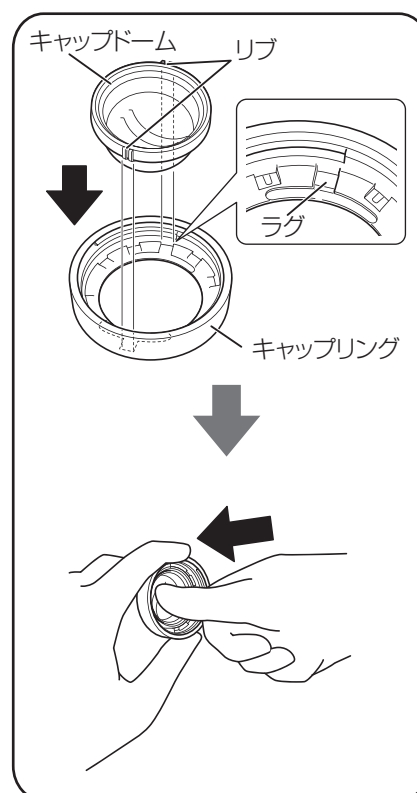


4. キャップリングにキャップドームを取り付けてください。



注記

- ・ キャップリング、キャップドームともに乾燥させてから取り付けてください。
- ・ キャップドームのリブとキャップリングのラグの位置を正確に合わせて取り付けてください。

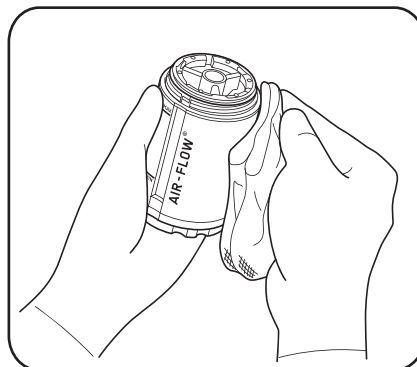


- 5.** パウダーチャンバーの外装は、アルコール系無色の市販消毒液（エタノール、イソプロパノール）で清拭してください。



注記

- ・ パウダーチャンバーは滅菌できません。
- ・ パウダーが固まるおそれがあるため、パウダーチャンバーの内部およびねじ部などのパウダー流経路には消毒液を使用しないでください。

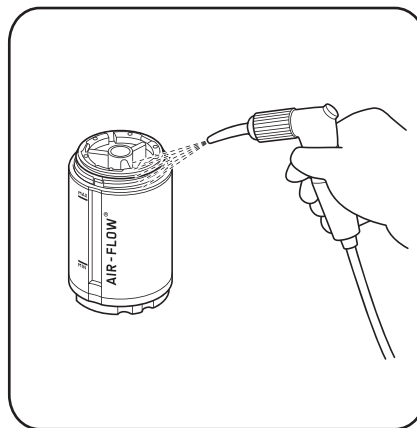


- 6.** パウダーチャンバーの内部およびねじ部をエアで清掃してください。



参考

パウダーが固まるおそれがあるため、長期間パウダーチャンバーを使用しないときは、パウダーを廃棄し清掃してください。



適切な洗浄・消毒・滅菌方法の一覧

	洗浄 (洗浄水+ ブラシ)	消毒用 エタノール 清拭	消毒用 エタノール 噴霧	消毒液への 浸漬	オート クレーブ 滅菌	ケミ クレーブ 滅菌	乾熱 滅菌	プラズマ 滅菌	EOG 滅菌	備考
本体	×	○	○	×	×	×	×	×	×	パウダー流経路 以外可能
ハンドピース	○	○	○	×	○	×	×	×	×	パウダー流経路 以外可能
ハンドピース ホース	×	○	○	×	×	×	×	×	×	パウダー流経路 以外可能
パウダー チャンバー	×	○	○	×	×	×	×	×	×	パウダー流経路 およびねじ部 以外可能
マグネット サポート	×	○	○	×	×	×	×	×	×	
ペリオフロー ノズル	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ステリボックス	○	○	○	×	○	×	×	×	×	
備考					135℃ ・2気圧 以下で 3分以上					

参照資料のご紹介：

- ※1 ISO 11607-1: Packaging for terminally sterilized medical devices -- Part 1: Requirements for materials, sterile barrier systems and packaging systems「最終段階で滅菌される医療機器の包装—第1部：材料、無菌バリアシステム及び包装システムの要求事項」→ 同等規格 JIS T 0841-1：2009
- ※2 EN 13060：Small steam sterilizers「小型蒸気滅菌装置」
- ※3 EN 285：Sterilization — Steam sterilizers — Large sterilizers「滅菌-蒸気滅菌装置—大型滅菌装置」

8 耐用年数

本器は納入後、正規の保守点検を行なった場合に限り、耐用年数は7年間とします。

9 保守・点検

本器は年1回の保守点検を必ず受けてください。(詳しくは、最寄りのディーラーまたは弊社までお問い合わせください)

- 「保守・点検について」の△警告および△注意を守ってください。
- 保守・点検に必要な部品などにつきましては、「14 商品の構成および付属品・別売品」でご確認ください。

ヒューズの点検

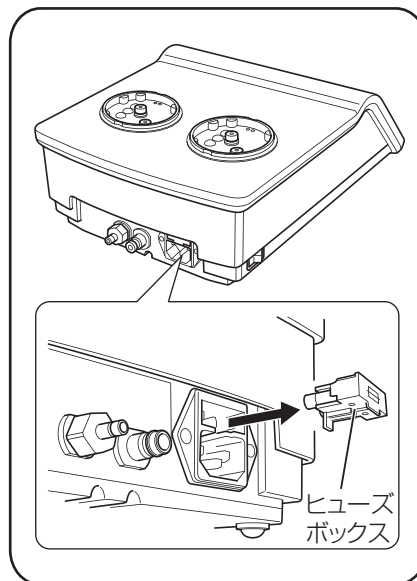
本体の電源が入らないトラブルが発生した場合、ヒューズが溶断していることが考えられます。ヒューズを交換する場合は、ヒューズの仕様を確認してから作業を行なってください。

ヒューズ仕様 : T1.6A 250VAC (φ5×20mm、タイムラグヒューズ)

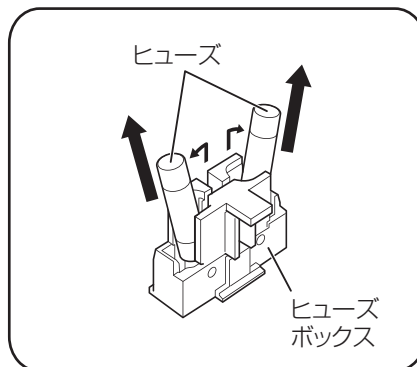
使用数量 : 2本

●点検・交換方法

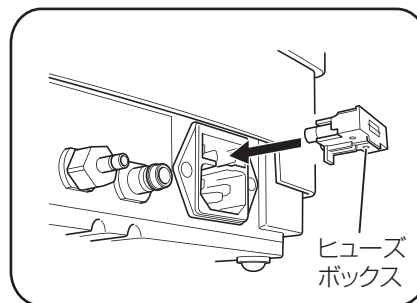
1. マイナスドライバーなどを使用してヒューズボックスを外し、引き抜いてください。



2. ヒューズボックスからヒューズを抜き取り、溶断している場合は新しいものと交換してください。



3. ヒューズボックスを本体に取り付けてください。



パウダーチャンバーの点検

●キャップリング、キャップリング、キャップドームの点検・交換方法

キャップリング、キャップリング、およびキャップドームには繰り返し高圧が掛かるため、パウダー充填時またはエアーの漏れる音がしたときは、目視でひび割れなどがいないか点検してください。異常がある場合は使用を中止し、新しい部品と交換してください。

1. キャップリング、キャップリング、およびその周辺にパウダーなどが付着している場合、乾いた布やエアーなどで清掃してください。



注記

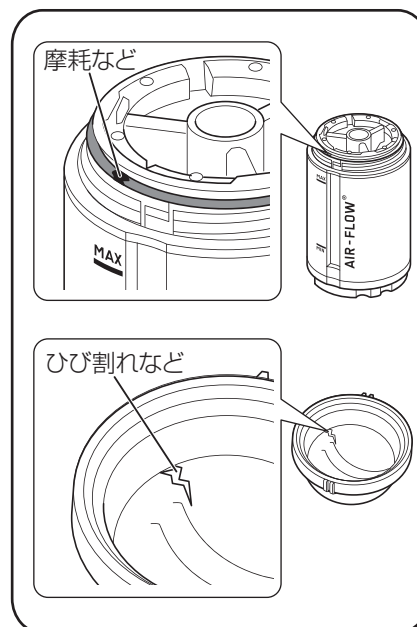
清掃にはアルコールや水を使用しないでください。

2. キャップリングの磨耗やキャップドームのひび割れなどの異常がある場合は、新しいものと交換してください。



注記

キャップドームの取り付け作業は正確に行なってください。(参照 →55 ページ)



●チャンバーOリング(中)およびチャンバーバルブの点検・交換方法

年に1回程度、またはエアーの漏れる音がしたときは、チャンバーOリング(中)およびチャンバーバルブを点検してください。異常があれば新しい部品と交換してください。

1. パウダーチャンバー下部のメタルブッシュねじを取り外してください。



注記

- ・ チャンバーOリング(中)はメタルブッシュねじに取り付けられています。
- ・ チャンバーバルブはメタルブッシュねじとチャンバーの間に挟み込まれています。

2. メタルブッシュねじやチャンバーバルブにパウダーなどが付着している場合は、乾いた布やエアーなどで清掃してください。



注記

清掃にはアルコールや水を使用しないでください。

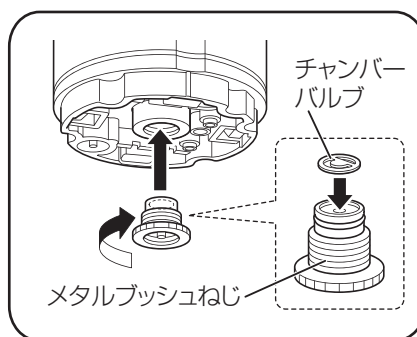
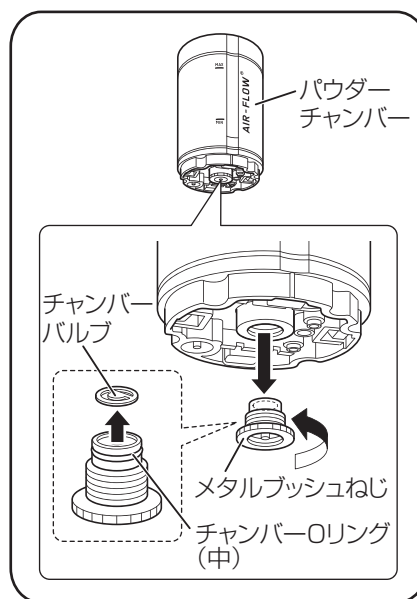
3. チャンバーOリング(中)またはチャンバーバルブに破損または変形などの異常がある場合は、新しい部品と交換してください。

4. 点検・交換した後は、メタルブッシュねじの中央にチャンバーバルブを置き、正しく中央に位置していることを確認してから、メタルブッシュねじをパウダーチャンバーの下側から取り付けてください。



参考

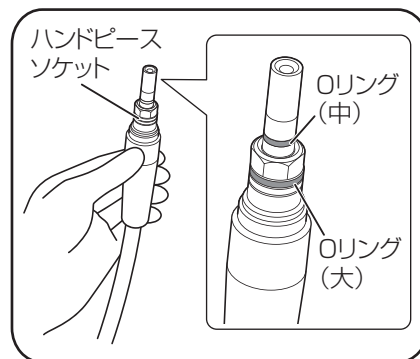
メタルブッシュねじを上方向から取り付けるとチャンバーバルブが落下するため、必ずパウダーチャンバーの下側から取り付け作業を行ってください。



ハンドピースホースの点検

●ハンドピースソケットのOリング(大、中)の点検

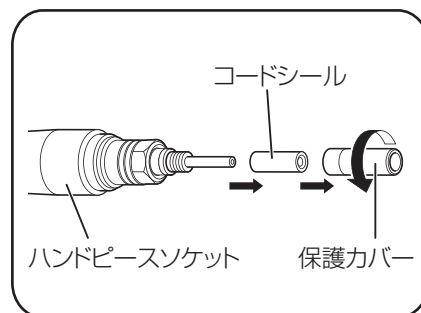
ハンドピース接続時に、ハンドピースソケットのOリング(大)、Oリング(中)を点検し、破損または摩耗などの異常がある場合はすぐに新しい部品と交換してください。



●コードシールの点検・交換方法

ハンドピースがスムーズにハンドピースソケットに接続できなくなった場合は、コードシールを交換してください。

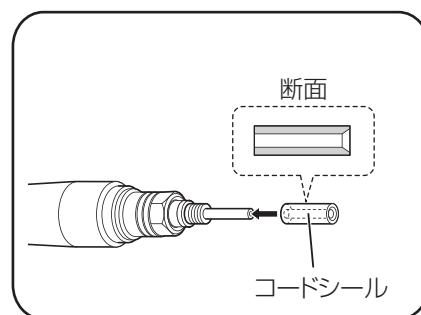
1. ハンドピースソケット先端の保護カバーを回して外し、コードシールを取り外してください。



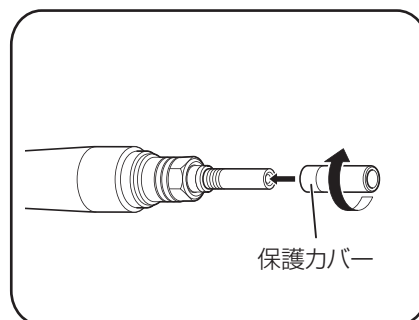
2. ハンドピースソケットの先端に、新しいコードシールを向きに注意しながら取り付けてください。



新しいコードシールの外側を水で濡らし、保護カバーに入れてください。



3. ハンドピースソケットの先端に、保護カバーをねじ込んで取り付けてください。



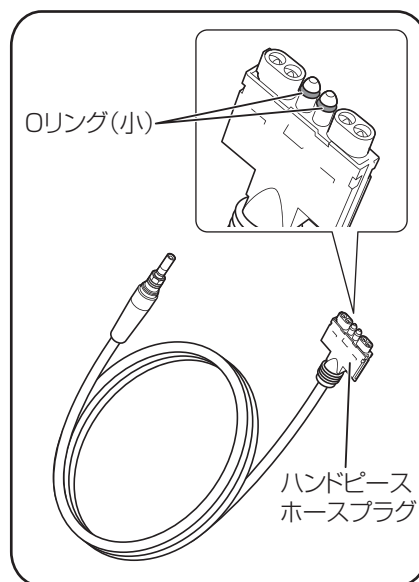
●ハンドピースホースプラグのOリング (小) の点検・交換方法

ハンドピースホースプラグを抜き差しするとき、ハンドピースが動作しないとき、またはエアーの漏れる音がするときなどに点検し、破損、変形などの異常があればすぐに新しい部品と交換してください。

1. ハンドピースホースプラグの周辺にパウダーなどの付着物がある場合は、乾いた布やエアーなどで清掃してください。

 注記 清掃にはアルコールや水を使用しないでください。

2. Oリング (小) に異常がある場合は、先端の尖ったプラスチック製のツールで引っ張り出し、新しいものと交換してください。



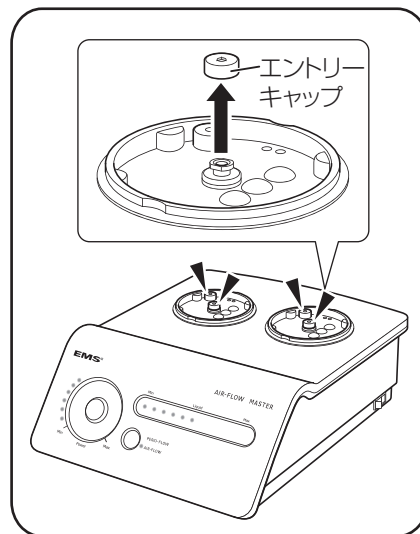
-  注記
- ・ エアー漏れの原因になるおそれがあるため、ハンドピースホースプラグを損傷、破損しないように点検・交換を行なってください。
 - ・ Oリング (小) を交換するとき、金属製のツールは使用しないでください。
 - ・ 一度取り外そうとしたものや、いったん取り外したものは使用しないでください。Oリングが損傷しているおそれがあります。

チャンバーホルダーの点検

- ・ パウダーチャンバーを取り外したときにエントリーキャップを点検し、異常がある場合は新しい部品と交換してください。
- ・ 月に1回程度、またはエアーの漏れる音がしたときは、チャンバーホルダーOリングを点検し、異常がある場合は新しい部品と交換してください。

●点検・交換方法

1. エントリーキャップを目視で点検し、破損または変形などの異常がある場合は、新しい部品と交換してください。



2. エントリーキャップを外し、チャンバーホルダーOリングの周辺にパウダーなどが付着していないか、または詰まっていないか点検してください。パウダーなどが付着している場合は、乾いた布やエアーなどで清掃してください。



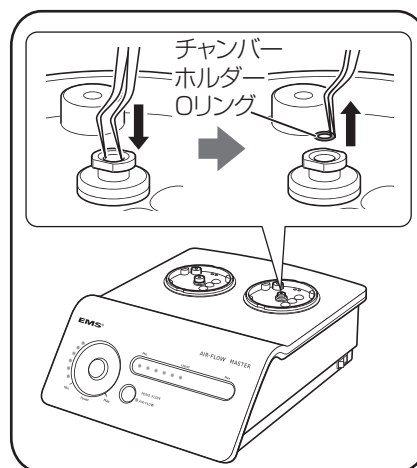
注記 清掃にはアルコールや水を使用しないでください。

3. チャンバーホルダーOリングに損傷または変形などの異常がある場合は交換する必要があるため、先端の尖ったプラスチック製のツールでOリングを引っ張り出してください。

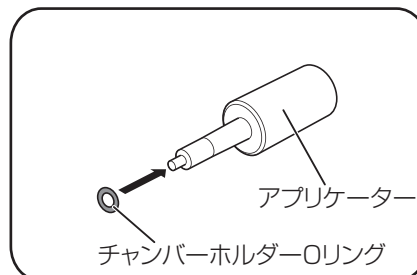


注記

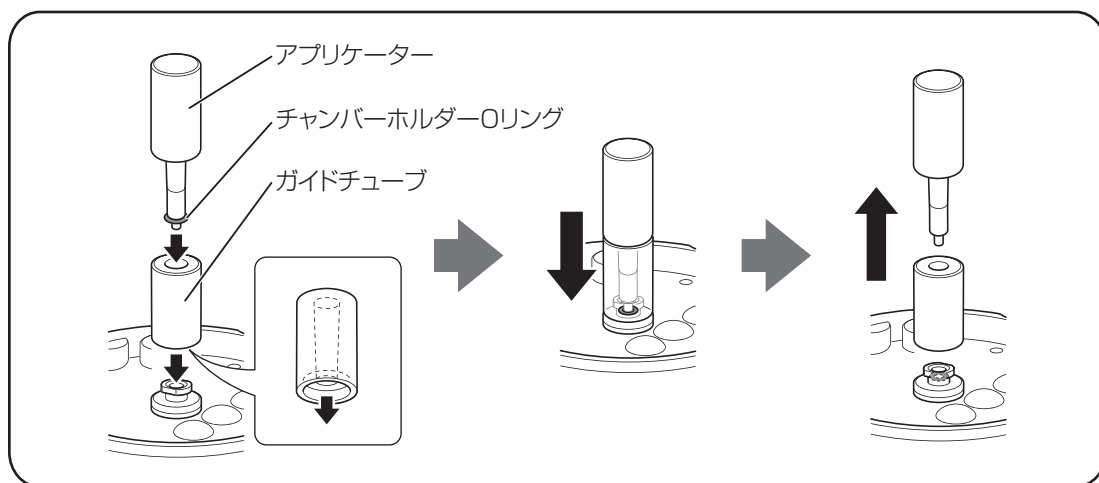
- ・ エア漏れの原因になるおそれがあるため、チャンバーホルダーOリングの取付部付近を損傷、破損しないように作業を行なってください。
- ・ チャンバーホルダーOリングを取り外すとき、金属製のツールは使用しないでください。



4. 新しいチャンバーホルダーOリングをアプリケーター先端に装着してください。



5. ガイドチューブをチャンバーホルダーのコネクター部に設置し、チャンバーホルダーOリングをアプリケーターごと差し込んで装着してください。



注記

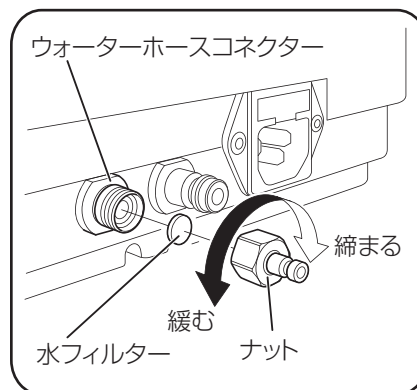
一度取り外そうとしたものや、いったん取り外したものは使用しないでください。Oリングが損傷しているおそれがあります。

水フィルターの点検

月に1回程度、または水量が通常より少ないとき、ウォーターホースコネクタ内の水フィルターを点検してください。必要に応じて、水フィルターの清掃または交換を行なってください。

●点検・交換方法

1. ウォーターホースを取り外してください。
2. ウォーターホースコネクタのナットを回し、内部の水フィルターを取り出してください。



3. 水フィルターが詰まっていたり、汚れがひどい場合は、清掃するか新しい水フィルターと交換してください。



注記

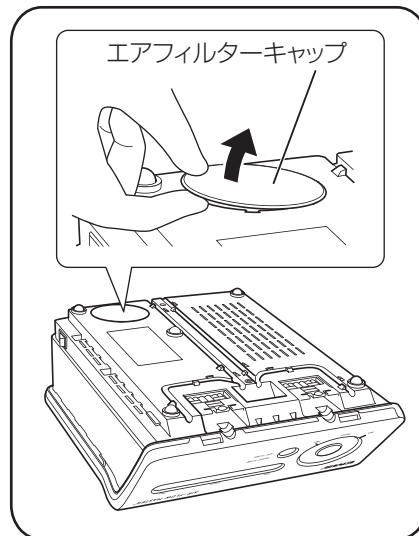
- ・ 本器を使用しないときは、給水の元栓を必ず閉じてください。
- ・ 水フィルターの点検・清掃後は、給水の元栓を開け、水漏れがないことを確認してください。

エアフィルターの点検

- ・ 週に1回程度、フィルターエレメントを清掃してください。
- ・ 半年に1回程度点検し、異常がある場合は新しい部品と交換してください。

●点検・交換方法

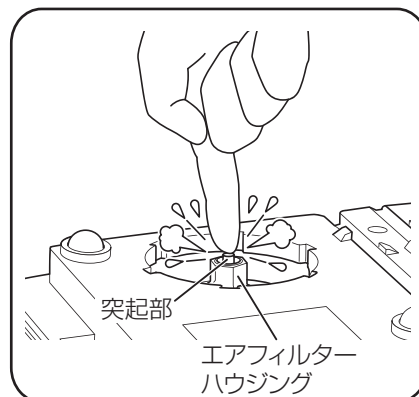
1. 本体底面のエアフィルターキャップを取り外してください。



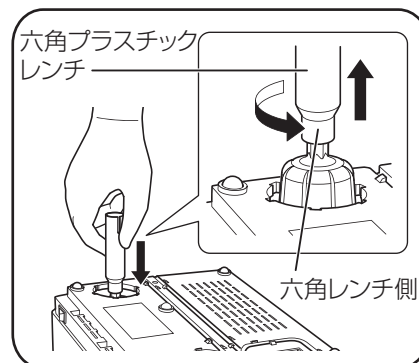
2. 内部にあるエアフィルターハウジングの突起部を押し、フィルターエレメント付近の異物を排出してください。週1回の清掃の場合は、フィルターキャップを取り付けて点検作業を終了してください。



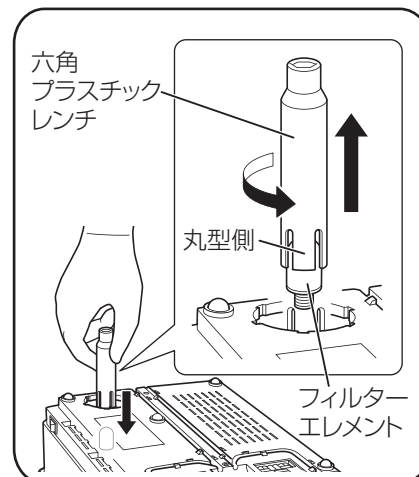
注記 必ずエアホースを接続し、エアーの元栓を開けた状態で行なってください。



3. 半年に1回程度、またはエア圧が不足している場合は、六角プラスチックレンチの六角レンチ側を使ってエアフィルターハウジングを回し、取り出してください。



4. 六角プラスチックレンチの丸型側を使ってフィルターエレメントを回し、取り外してください。



5. フィルターエレメントを点検し、汚れがひどい場合または詰まっている場合は、新しい部品と交換してください。



注記

フィルターエレメントは再使用できません。必ず純正の新しいフィルターエレメントを使用してください。

6. フィルターハウジングおよびエアフィルターキャップを元どおりに取り付けてください。

10 異常を感じたら

使用中、機器に異常を感じたときは使用を中止し、点検・修理を依頼してください。
 なお、下記のような場合は故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度調べてください。

現 象	点検事項	処 置
1. 電源スイッチをONにしてもLEDが点灯せず、全く動作しない。	[1] 電源プラグが確実にコンセントに接続されていますか？ [2] コンセントに電源が供給されていますか？ [3] ヒューズが溶断していませんか？	[1] 電源プラグを確実に接続してください。 [2] 通電を再確認してください。 [3] ヒューズを確認してください。
2. 電源スイッチをONにした後、パウダーチャンバーが加圧されない。エアーが漏れる音がする。	[1] 水 (0.1~0.5MPa)、エアー (0.55~0.75MPa) は規定の圧力で正常に供給されていますか？ コック類に問題はありますか？ [2] ウォーターホース、エアホースは正常に接続されていますか？ [3] パウダーチャンバーは確実にチャンバーホルダーに装着されていますか？ [4] パウダーチャンバー上部のキャップリングや下部のメタルブッシュねじのチャンバーリングに異常はありませんか？ [5] チャンバー上部のキャップリングやキャップドームに変形などの異常はありませんか？ また、パウダーが付着していませんか？	[1] 水、エアーを正しく接続し、供給してください。 [2] ウォーターホース、エアホースを正しく接続してください。 [3] パウダーチャンバーを確実に装着してください。 [4] 変形、キズなどの異常があれば交換してください。 [5] パウダーが付着している場合は取り除いてください。キャップドームが変形している場合は交換してください。
3. ハンドピースをマグネットサポートUから外してもチャンバーホルダーのLEDが点灯しない。	[1] ハンドピースホースプラグが本体のハンドピースホースソケットに奥までしっかりと差し込まれていますか？ [2] ソケット内部の接続部 (エアー、水、電気) にパウダーが付着していませんか？ (パウダーは水分で固まる性質があります)	[1] これらを確実に奥まで接続してください。 [2] パウダーを取り除いてください。
4. フットコントローラーを踏んでも動作しない。	[1] フットコントローラーは正しく接続されていますか？ [2] 2.と同様の点検を行なってください。 [3] 3.と同様の点検を行なってください。	[1] フットコントローラーを正しく接続してください。 [2] [3] 2.および3.と同様の処置を行なってください。

現 象	点検事項	処 置
5. ハンドピースノズルからの噴射が極端に弱い。または、全く噴射しない。	[1] 2.と同様の点検を行なってください。 [2] 3.と同様の点検を行なってください。 [3] 他社製のパウダーを使用していないですか？	[1] [2] 2.および3.と同様の処置を行なってください。 [3] 純正のパウダーを使用してください。
6. パウダーチャンバーの下部からパウダーが漏れる。	チャンバーホルダーのコネクターに接続する部分からパウダーが漏れることがあります。故障ではありません。	パウダーが入ったチャンバーを傾けたり、逆さにすることを避けてください。
7. マグネットサポートUからハンドピースが外れる。	マグネットサポートUのフックの角度は正常ですか？	マグネットサポートUの凹部にハンドピースをぴったりと合わせたときにしっかりと保持できる角度に、フックの位置を調整してください。
8. ハンドピースをマグネットサポートUから外したとき、逆側のパウダーチャンバーのLEDが点灯する。	ハンドピースを左右逆のマグネットサポートUに取り付けていませんか？	ハンドピース、マグネットサポートU、パウダーチャンバーは、左と右を正確に使い分けてください。
9. ペリオフローハンドピースをマグネットサポートUから外しても、ペリオフローモードにならない。	ペリオフローハンドピースを接続している側にエアフローパウダーチャンバーを取り付けていませんか？	ペリオフローハンドピースは、必ずペリオフローパウダーチャンバー（およびエアフローパウダー（ペリオ））と組み合わせて使用してください。
10. 突然、ハンドピースからエアとパウダーが噴出した。	[1] パウダーチャンバーが加圧された状態で電源スイッチをOFFにしませんでしたか？ [2] 電源スイッチをONにしてから1時間以上放置していませんか？ [3] エアフローハンドピースをマグネットサポートUに取り付けませんでしたか？	[1] 管路内のエアとパウダーを排出するセルフクリーニング機構が働いています。異常ではありません。 [2] 操作を行わないまま1時間経過すると自動的にパージ機能が働き、チャンバー内の圧力が開放されます。 [3] 故障ではありません。ペリオフローハンドピースの使用を想定して圧力を下げています。

現 象	点検事項	処 置
11. フットコントローラーのペダル④(ブーストペダル)を踏んでも、ブーストしているように感じない。	[1] エアー圧 (Power) の設定を最大 (Max) 近くにしていませんか？	[1] エアー圧 (Power) の設定が最大 (Max) に近い場合、ペダル④を踏んでも最大パワー（最低規定元圧0.55MPa付近）までしかブーストしません。
	[2] エアー圧 (Power) の設定は小～大の範囲ですか？	[2] 音と噴射の勢いを観察しても、30%の増加を識別するのは困難なため、コインなどに噴射して比較してみてください。
	[3] エアーの元圧は規定の0.55～0.75MPaの範囲ですか？	[3] エアーの元圧が0.55MPa未満の場合、ブーストの効果は少なくなります。（元圧以上にはブーストできません）
	[4] ペリオフローモードに設定していませんか？	[4] ペリオフローモードの場合、ブーストは機能しません。

以上の点検・処置を行なっても正しく動作しない場合は、部品または構成品を点検・修理または交換する必要がありますので、最寄りのディーラーまたは弊社に依頼してください。ただし、保証期間内でも次の場合は有償修理となります。

- ・ 誤用、乱用、および取り扱い不注意による故障・損傷
- ・ 不当な修理または改造による故障・損傷
- ・ 火災、地震、水害、その他の天災地変、および異常電圧による故障・損傷
- ・ 消耗品および付属品のお取り替えの場合
- ・ 保証書の提示がない場合および保証書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

修理を依頼されるときは、取扱説明書に従って本体・付属品の清掃、消毒、および滅菌を行なってください。

11 保管・輸送方法

- 最終的に本器を廃棄するときまで納品時の梱包材を保存しておき、本器を運送するときや保管の際に使用してください。
- 本器の修理や追加のサービスが必要な場合、本器を最寄りのディーラーまたは弊社まで送付してください。なお、「保守・点検」についての **△警告**「微生物の伝播による感染防止」の内容を厳守してください。
- 本器は、歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理してください。
- 傾斜、振動、衝撃（運搬時を含む）など安定状態に注意してください。
- 本器は、直射日光、汚染、湿気を避けて室温で保管してください。
- 本器を長期間使用しない場合：
 - ・「7 再使用器具の洗浄・消毒・滅菌処理方法」に従って処理してください。
 - ・パージを行なって本器内の水を空にしてから、水フィルターを取り外してください。
 - ・本器やすべての付属品を納品時の梱包箱に収納してください。
 - ・保管・輸送環境
 - 温度：－10℃～＋40℃
 - 湿度：10%～95%
 - 気圧：500～1060 hPa

12 本器の廃棄

- 本器、付属品および梱包箱など、環境にとっての汚染や危害を及ぼすおそれのある物は一切含めないでください。
- 本器および付属品を一般の廃棄物として捨てないでください。廃棄処分の方法はそれぞれの地域の法律・規制に従ってください。

13 仕様

電撃に対する保護の形式による分類	クラス I
電撃に対する保護の程度による装着部の分類	BF形装着部
水の有害な浸入に対する保護の程度による分類	IP20 (本体) IP X1 (フットコントローラー)
電源電圧	AC 100～240V、50/60Hz
電源入力	最大100VA
ヒューズ	T1.6A 250VAC ($\phi 5 \times 20$ mm、タイムラグヒューズ)
使用空気圧	0.55～0.75 MPa
使用水圧	0.1～0.5 MPa
本体外形寸法	W225 × D295 × H108 (mm) (パウダーチャンバーを除く)
本体質量	約3.6 kg (パウダーチャンバーを除く)
使用環境	温度：+10℃～+40℃ 湿度：30%～75%

※本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

14 商品の構成および付属品・別売品

●エアフローマスター（標準セット品）

単品販売	品名	個数	備考
	本体	1	
○	エアフローS ソリッドハンドピース (白)	1	
	ステリボックス (1/4DIN)	1	
○	エアフローS ソリッド用清掃針 (短)	1	
○	エアフローS ソリッド用清掃針 (長)	1	
	ニードルガイド	1	
○	ペリオフローハンドピース	1	
	ステリボックス (1/4DIN)	1	
○	ペリオフロー用清掃針	1	
○	ペリオフローノズル (40個入)	1	
○	エアフローパウダー (レモン味) 300g ボトルタイプ	1	
○	エアフローパウダーチャンバー	1	
○	ペリオフローパウダーチャンバー	1	
○	ハンドピースホース (AFM用)	2	
○	ピエゾンマスター600 フットコントローラー	1	
	エアホース	1	
	ウォーターホース	1	
○	マグネットサポートU (左、右)	各1	
	電源コード	1	
○	パウダーチャンバーカラーリングセット	1	
○	ノズルリムーバー	1	
	六角プラスチックレンチ	1	
	取扱説明書	1	
	添付文書	1	
	医用電気機器の使用上の注意事項	1	
	保証書	1	

●別売 単品販売品

- ・エアフローパウダー (レモン味) : 40g × 20袋
- ・エアフローパウダー (ソフト) : 200g ボトルタイプ
- ・エアフローパウダー (ペリオ) : 120g ボトルタイプ
- ・キャップドーム
- ・フィルターエレメント
- ・ピエゾンマスター600 水フィルター
- ・エントリーキャップセット

●修理部品

- ・ヒューズ
- ・チャンバーOリング (中)
- ・チャンバーバルブ
- ・ハンドピースソケットOリング (中)
- ・ハンドピースソケットOリング (大)
- ・コードシール
- ・ハンドピースホースプラグOリング (小)

15 保証

本器は厳重な検査を経て出荷されておりますが、保証期間内（お買い上げ日より1年間）に正常な状態において万一故障した場合には無償で修理いたします。ただし、消耗品については保証期間内でも有償となります。

詳しくは添付の保証書をご覧ください。



世界の歯科医療に貢献する

株式会社 松風

<http://www.shofu.co.jp>

本社●〒605-0983 京都市東山区福稲上高松町11・TEL(075)561-1112(代)